慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	西ドイツ刑法学の現状 (追録IV)
Sub Title	Der gegenwärtige Stand der deutschen Strafrechtswissenschaft (Vierte Ergänzung)
Author	宮澤, 浩一(Miyazawa, Koichi)
Publisher	慶應義塾大学法学研究会
Publication year	1977
Jtitle	法學研究 : 法律・ 政治・ 社会 (Journal of law, politics, and sociology). Vol.50, No.4 (1977. 4) ,p.74- 137
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	資料
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00224504-19770415-0074

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

資料

西ドイツ刑法学の現状（追録Ⅳ）

宮澤浩一

解説

一　西ドイツ刑法学の現状を正確に把握するという此の仕事を続けて、今年で一二年目に入る。もつとも、これは、一九五八年に、予備的な調査を公刊したことがあるので（法学研究三一巻八号、昭和三三年）、その時期から計算すると、一九年目に入る。最初は、何となく、おぼつかない仕事ではあつたが、今日では、日本の心ある研究者にとつては勿論のこと、西ドイツの研究者仲間にとつて、彼らの同僚の業績を知る上で、かなり頼りにされている基礎資料となつた。西ドイツの友人達と話をすると、必ずこの資料が話題となり、新しい情報を教えてくれるし、中には、「西ドイツの刑法学者の間で、論文を書くときに一番ひんぱんに参考にされる文献の一つではないかと思う」とさえ、言つてくれる人もある。これらの人々の声援と協力を得て、次第に成長してゆくこの仕事を、ますます、充実させ、一層正確なものにしてゆかねばならないという責任を感じている。

二　他の研究者に、正確な情報を伝えるという仕事には、極めて重い責任が伴う。若し、不正確な記事があれば、それは直ちに判明してしまうし、間違った情報で他の人々の仕事を阻害する危険が内在している。そこで、数年前から、ここに収録した文献のすべてを自分の手元に集めることにした。勿論、集めるということは、目を通すことを意味する。大へん勉強になるが、結果的には、本とファイルの山にかこまれることになつた。殊に、雑誌論文は、コピーにとつて、事項ごとにファイルして整理することにしたので、私の勉強部屋はまるで工場のような観を呈することになる。しかし、これほど楽しい仕事はない。学問の動向が、手にとるように分るのであ

る。そして、此のやり方が、西ドイツの仲間に伝わつているので、彼等の協力には、以前と比べて、格段の相違がある。中でも、教授資格をとつて、学者の世界に入つたばかりの若手の人々は、特に積極的に協力し、情報を提供してくれる。この実績をふまえて現在、さし当り、第二次大戦後の文献に限つて、西ドイツ刑法学の集大成をしようという気持になつた。恐らく、ここ数年の間に、三冊から成る「西ドイツ刑法学研究の手引き」を公刊することになろう。しかし、この仕事は、事柄の性質上或る時点で区切りをつけて文献の整理をするので、その後に現われたものを逐次フォローする必要に迫られる。そこで、此の「追録シリーズ」は、少くとも二年に一回は、今後も発表しつづけねばならないと思われる。

三 「追録Ⅳ」には、前稿「追録Ⅲ」(法学研究四八巻六号)を公刊して後の二年間に公刊された文献、これまでの分に登載洩れであつた文献を収録した。なお、この二年間に、私どもになじみの深かつた学者、ラング・ヒンリクセン(一九七五年三月二日歿)、マウラッハ(一九七六年六月一一日歿)が此の世を去つた。それと同時に、新らしく、若い世代の学者が多数登場した。アルファベット順であげると、次の通りである。アッヘンバハ(ミュンヘン)、アメルンク(ボッフム)、バッケス(ブレーメン)、ベーム(マインツ)、デンカー(ボン)、エーベルト(ビーレフェルト)、フェーツァー(ミュンスター)、フィードラー(ボン)、フィンケ(ビーレフェルト)、フリッシュ(マンハイム)、ゲッペルト(ベルリン自由大学)、グレビンク(フライブルク)ハフケ(ハノーバー)、ハインツ(コンスタンツ)、ヒューナーフェルト(フライブルク)フーペ(マールブルク)、クロイツァー(ギーセン)、クライ(トリェー)、ライビンガー(コンスタンツ)、ユルゲン・マイヤー(フライブルク)、ロリンスキー(レーゲンスブルク)、リューピング(ボン)、シリング(ハンブルク)、シェーネボルン(フランクフルト)、シュウィント(ビーレフェルト)、トス(ブレーメン)、トゥリフテラー(ギーセン)、ウルゼンハイマー(ボッフム)、ヨアヒム・ワーグナー(ベルリン自由大学)、ウルリッヒ・ウェーバー(ベルリン自由大学)らがこれである。この中には、すでに、「追録Ⅲ」に入れるべきであつた者もいるが、著作が少なく、その当時には、気づかなかつた人達である。あまり、最近、物を書かなくなつた人をも加えて、西ドイツの大学関係の研究者は、一五〇人ほど居るが、現在までその殆んどの調査を終えた。若い学者達に、当方で記録した著作の一覧表をつけて、照会の手紙を出すと、殆んどの人々から、すぐに返事がくるので、資料としては、極めて精度が高いと思う。

この「追録Ⅳ」から、新たに登場した学者には、※印をつけて、これを明示することとした。又、今回の資料と過去のそれとをインテグレートするのに便利なように、各学者の記事の冒頭に、追録Ⅲと同様、既発表の資料の所在頁を掲げた。ちなみに、刑一七・一・二と三・四とは、刑法雑誌一七巻一・二号、三・四号、昭和四五、四六年であり、追Ⅱ1・2は、法学研究四五巻九、一〇号、昭和四七年、追Ⅲは、法学研究四八巻六号、昭和五〇年である。

四 この資料は、依然として、わが国の刑法学研究者の中で根強い西ドイツ刑法学への関心に応えるべく、その現状を正確に伝える

という編者の意志の現われである。それは同時に、明治二〇年代以後、幾多の日本の学者や実務家が、ドイツ刑法学から多くのものを学び、今日の日本の刑法学の血となり、肉となり、骨としたけれども、これまで日本から、その研究成果をドイツにかえし、何らかの斯学の発展に寄与したことがあるかを深く反省し、そのあまりにも一方的な輸入超過に慄然とし、恥かしい思いをした筆者が、何とか「知識の逆輸出」をしたいものだと考え、それを徐々にはたしてきたものである。この仕事は、決して、一部の人々が評するように、「対独従属的」なものではない。何故なら、従属すべき類似の仕事がほかにはないからである。むしろ、西ドイツの刑法学をここまで追いつめることが、外国人の手でできるのだということを事実をもつて示そうという筆者の心意気の現われと理解して欲しい。そして、今後、日ならずして、一八世紀末から今日までのドイツ刑法学、さらに、スイス、ベルギー、オーストリア、フランス、イタリー、そして出来れば、オランダと北欧について、同じように、その過去と現在を徹底的に究明してゆきたいと考えている。

五　日本の学者、実務家は、大へん勤勉に、西欧、殊に、西独の刑事法学を研究してきたし、現在も、研究し続けている。しかし、広くかつ深い比較研究を行なうに当つて、従来、いわば、海図も羅針盤もない航海をしているような状況にあつた。今も、似たようなものである。私のこの「基礎的研究」は、まさに、すぐれた同学の士のために、航海の必携品を提供することにある。

ところで、この種の資料を造ることを心がけ始めたとき、私の考えの中にあつたのは、「武器の平等」という理想である。言うまでもなく、研究を行なう者が、利用する研究資料を平等に持ち合い、学問の場で対等にわたり合うという理想的な姿をいう。わが国の学界ではともすれば、明治、大正、昭和、そして今日まで、学問の情報が偏つて存在していたきらいがある。何故、最近まで、特定の少数の大学の研究者が、――大したこともないのに――学界において覇を唱えることができたのか。それは、一にかかつて情報を早く、排他的に握ることができたからにほかならない。時代が変り、情報蒐集において、「開かれた社会」になつたにもかかわらず、一度ついたくせは、容易に直らない。私も、はじめは、自分のところに、情報を集め、次第にそれを効率的に駆使しうるまでのシステムに造りあげた。そして、次第に、これを皆の共有財産にしようという考えを持つに至つた。正攻法をとるのが、私の性に合つている。こそこそした態度ではなく、学問全体を多くの同憂の人々とともに向上させることこそ、望むところであるし、日本の学問をして国際的なコンクールに出してひけをとらないだけの力をつけるのは、一人の力では不可能であることを身にしみて知つたからに他ならない。

かつての私もそうであつたが、わが国では、モノグラフを書く場合に、外国、殊に、ドイツの論文や単行本をたんねんに読んで、そこに引用されている雑誌論文などにも目を通し、若干の観点をつけ加えて、論文に仕上げるのが常である。その場合、ベンネッケらによつて創刊された Strafrechtliche Abhandlungen がずい分、長い間、愛用された。だが、どうもこのやり方は、安易であり、かつ危

険ではないかと思うのである。何故なら、ドイツのオリジナルの論著の筆者達自身、必ずしも、過去の業績について、正確な見通しを持たず、あまり組織的にではなく、かなりアトランダムに材料を集めているからである。一九世紀、或いはそれ以前の論文や著書を全体として見通して、必要なメモを集大成した上でモノグラフを作成した人が、はたしてどのくらいいただろうか。つまり、われわれが下敷にしている著作の、殊に、学説史の部分は、その当該著者の主観と才能というプリズムを通して選択されたものであるにすぎない。そうではなくて、日本人の目で、それらの原材料をつぶさに検討し、テーマごとに過去の遺産を洗い直して、われわれ自身の選択眼と判断力を通して、学説の発展過程を分析し、その成果をふまえて、個別問題の核心に迫るという、本格的な研究をすべきではないかと思う。

そのために必要なことは、まさに、過去の業績の所在を正確に知ることである。私のこの考えは、ここ五、六年、閑をみては書きためている一七九七年以後のドイツの刑法関係の雑誌論文のメモ、論文コピーの蓄積を通して、次第に確固たる信念になりつつある。

私の仕事は、誰のものか。私の気持を率直に述べれば、殊に、私のあとからつき進んでくる多くの若い世代の研究者に、迂遠で、手間と閑と、そして大へんの財力のかかるこの仕事の所産をさしあげたいと思つている。この仕事は、本来（日本のこれまでの先学のやり方に従えば）、こつそりとやつておいて、彼の地の所説を換奪奔胎し、いかにもオリジナルな考えであるかのように装つて、原典を引用もせず、頬かぶりをして、「新学説」のごとくに駆使した方が、私自身のためにはなるものである。しかし、私には、そういう育ちの悪いことは出来ないのである。何故なら、私は、福沢諭吉の縁に連なる者の一人だからである。

六　最後に、此の資料を造つているとき、私の心を支えている言葉を伝えたい。「理論の世界には疑ふことの許されない権威はない。私は特に若い学徒の……思惟における徹底的な態度を希望する」（佐伯千仞・原因において自由なる行為、刑事法講座第二巻、昭和二七年、三〇九頁）。

浅薄なキャッチフレーズをふり廻し、オリジナルな思考であるかのごとく装う「理論」なるものは、日本語だから救われ、日本だから通用するという面のあることを忘れてはならない。えてして、その類の著書の「目新らしさ」の七〇％以上が、すでに既発表の外国文献にあることを知つて欲しいものだ。この種の例は、偶然の一致にしては、多すぎる。引用がないのは、整理能力の不足か、その所在を知らないのか、或いは剽窃であろう。そのいずれか一つでも、学者としてのエートスに欠ける欠陥人間と思うが、しかし、しばらくはこのままにしておこうと思う。何故なら、その「オリジナリティー」なるものに目がくらんで、ひつぱり廻される者は誰か、要するに、真の学者であるかどうかを判定するのに、大へん良い方法の一つであると思うからである。つきはなしたいい方かも知れないが、私自身、日本の刑法学が国際的に通用するようになるためには、非情な態度も必要であると思い始めている。

凡　例

本資料に用いた文献の略号は、従来のそれによる。今回、新たに用いたものは、左の通りである。

IJCP → International Journal of Criminology and Penology

IJOTCC → International Journal of Offender Therapy and Comparative Criminology

JA → Juristische Arbeitsblätter

Koll Str Vgl. → Kolloquium Strafrecht Strafrechtsvergleichung, 1975.

ÖRZ → Österreichische Richterzeitung

ZRP → Zeitschrift fur Rechtspolitik

※ アッヘンバハ (Hans Achenbach)

一九四一年一〇月一三日に、ハメルンに生まれた。クラウス・ロクシンに提出した論文 Historische und dogmatische Grundlagen der strafrechtssystematischen Schuldlehre, 1974 で学位を取得し、現在、同大学の犯罪科学研究所の助手である。

論文

Zweiteilung des Strafverfahrens—Plädoyer für eine "kleine Lösung". JR 1974, S. 401 ff.

Wiederbelebung der allgemeinen Nichtzumutbarkeitsklausel im Strafrecht? JR 1975, S. 492 ff.

"Tat", "Straftat", "Handlung" und die Strafrechtsreform. MDR 1975, S. 19 ff.

Strafprozessuale Ergänzungsklage und materielle Rechtskraft. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 74 ff.

Der praktische Fall. Strafrecht: Die folgenschwere Geburtstagfeier. JuS 1976, S. 592 ff.

Verfahrenssichernde und vollstreckungssichernde Beschlagnahme im Strafprozeß. NJW 1976, S. 1068 ff.

Neue Impulse bei der Rechtskraft des Strafbefehls. ZRP 1977.

※ アメルハク (Knut Amelung)

一九三九年二月一三日に、ステッティンに生まれた。一九六〇年から、法学と社会学をフライブルク（西独）、ローザンヌ、ゲッティンゲンの諸大学に学び、一九六五年にレフェレンダールとなった。そして、同時に、ゲッティンゲン大学のベドウラ教授の助手として活躍し、一九七一年に、ロクシンに提出した論文 Rechtsgüterschutz und Schutz der Gesellschaft. Untersuchungen zum Inhalt und zum Anwendungsbereich eines Strafrechtsprinzips auf dogmengeschichtlicher Grundlage. Zugleich ein Beitrag zur Lehre von der "Sozialschädlichkeit" des Verbrechens, 1972 により学位を取得した。

一九七四年以後、シュライバーの助手を勤め、一九七五年四月一五日に、ボッフム大学研究参与兼教授として赴任し、今日に至っている。

著書

Rechtsschutz gegen strafprozessuale Grundrechtseingriffe, 1976.

論文

Internationale Gerichtsbarkeit. Fischerlexikon. Recht, 2. Aufl., 1971, S. 69 f.

Amelung—Schall, Zum Einsatz von Polizeispitzeln: Hausfriedensbruch und Notstandsrechtfertigung, Wohnungsgrundrecht und Durchsuchungsbefugnis. OLG München NJW 1972, S. 2275, JuS 1975, S. 565 ff.

Unternehmerpfandrecht und Schadensberechnung beim Betrug. NJW 1975, S. 675 ff.

Zur Frage der Vereinbarkeit vollstreckungsrechtlicher Durchsuchungen mit dem Richtervorbehalt in Art. 13 Abs. 2 GG. ZRP 1975, S. 74 ff.

Irrtum und Zweifel des Geschädigten beim Betrug. GA 1976, S. 1 ff.

アルツト (Gunther Arzt)

〔刑一七・一・二′一一五′三・四′一三三′追Ⅱ一九七′追Ⅲ五七〕

著書

Der Ruf nach Recht und Ordnung. Ursachen und Folgen der Kriminalitätsfurcht in Deutschland und in den USA, 1976.

Baumann — Arzt — Weber, Strafrechtsfalle und Lösungen, 4. Aufl., 1976.

論文

Notwehr, Selbsthilfe, Bürgerwehr. Zum Vorrang der Verteidigung der Rechtsordnung durch den Staat. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 77 ff.

Offener oder versteckter Rückzug des Strafrechts vom Kampf gegen Ladendiebstahl? JZ 1976, S. 54 ff.

Kriminalitätsbekämpfung durch vorbeugende Sicherung. Ausweg oder Sackgasse? Krim. 1976, S. 433 ff.

※ **バッケス** (Otto Backes)

一九三六年一〇月四日に′ザール州のテライに生まれた。当時′ザール大学教授であつたマイホーフアーに提出した論文 Rechtsstaatsgefährdungsdelikte und Grundgesetz, 1970により′学位を取得した後′マイホーフアーとともに′ビーレフェルト大学に移り′助手を勤め′その間′刑法対案グループに属して′諸草案の起草に協力していたが′Strafrechtswissenschaft als Sozialwissenschaft – Zur sog. Parallelwertung in der Laiensphäre (近く公刊の予定) により′教授資格を取得し′一九七六年に′ブレーメン大学教授となつた。

論文

Umweltstrafrecht. JZ 1973, S. 337 ff.

Fehlstart im Umweltstrafrecht. ZRP 8. Jg., 1975, S. 229 ff.

バウマン (Jürgen Baumann)

〔刑一七・一・二、二一五、三・四、一三二、追Ⅱ一九八、追Ⅲ五七〕

一九七六年夏に、ベルリン市の司法大臣に就任した。クルーク、マイホーファーに次いで、三人目の政治家が誕生したわけである。代案教授陣は、現在では、ニスタブリッシュメントになり、若い世代から「年とった人達」と言われるようになった

著書

Zwangsvollstreckungsrecht. Lehrbuch, 1975.

Konkurs und Vergleich, 1976.

Baumann-Arzt-Weber, Strafrechtsfälle und Lösungen, 4. Aufl., 1976.

論文

Zwei Jahre 1. StrRG im Verkehrsstrafrecht. Ergänzung zu Schultz in JR 71, 353. JR 1972, S. 60 f.

Karl Peters 70 Jahre. JZ 1974, S. 66 f.

"Glücklichere Menschen" durch Strafrecht? Erwiderung auf die Kritik von Dreher am 4. StrRG. JR 1974, S. 370 ff.

Les problèmes actueles posés par la réforme pénitentiaire de 1973 en République fédérale d'Allemagne. RSCDPC, 1974, P. 23 ff.

Strafprozeßreform in Raten. ZRP 8. Jg., 1975, S. 38 ff.

Eine Bagatelle? ZRP 9. Jg., 1976, S. 268 ff.

ベマン (Günter Bemmann)

〔刑一七・一・二、二一二、三・四、一三二、追Ⅱ一一〇〇、追Ⅲ五八〕

論文

Für eine Dienstleistungsstrafe. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 211 ff.

ブラウ (Günter Blau)

〔追Ⅱ2一〇六、追Ⅲ五九〕

編著

Schwind — Blau, Strafvollzug in der Praxis, 1976.

論文

Die Entwicklung des Strafvollzuges seit 1945 - Tendenzen und Gegentendenzen. Schwind - Blau, op. cit., S. 23 ff.

Das Vollstreckungsgericht, ebenda, S. 359 ff.

ブライ (Hermann Blei)

〔刑一七・一・二、二一一、三・四、一三二、追Ⅱ一一〇〇、追Ⅲ五九〕

一九七六年に、新設のトリエー大学教授から招聘を受けたが、ベルリンにとどまつた。

著書

Strafrecht I. Allg. Teil, 16. Aufl., 1975.

Strafrecht II. Bes. Teil, 10. Aufl., 1976.

論文

Körperverletzung durch Schädigung der Leibesfrucht? Münch. Medizinische Wochenschr. 1970, S. 741 ff.

Strafrechtsreform auch im Einführungsgesetz! Eine kritische Auseinandersetzung mit Armin Kaufmann, keine neue Reform zur Einführung der alten. JZ 1973, 497. JA 1973, S. 163 ff.

Versuch und Rücktritt vom Versuch nach neuem Recht. JA 1975, S. 23, 41, 61.

ボッケルマン (Paul Bockelmann)

〔刑一七・一・二、二一一、三・四、一三二、追Ⅱ一〇一、追Ⅲ五九〕

著書

Strafrecht. Allg. Teil, 2. Aufl., 1976.

Strafrecht. Bes. Teil I, 1976.

論文

Wilhelm Gallas 70 Jahre alt. JZ 1973, S. 469 f.

Zur Kritik der Strafrechtskritik. Festschr. f. Lange, 1976, S. 1 ff.

※ ベーム (Alexander Böhm)

一九二九年六月二四日に、ベルリンで生まれた。フライブルク、ベーゼル、フランクフルトの各大学で法学を学び、一九五一年にレフェレンダール、一九五五年にアセソアになつた。一九五一年から五六年まで、フランクフルト大学助手であつたが、一九五六年にヘッセン州の行刑官庁に勤務し、一九六〇年から、ロッケンベルヒ少年刑務所長となり、併せて、ヘッセン州のハインリッヒ・ワグニッツ刑務官セミナールの所長をも兼ねた。その後、教授資格を取得し、一九七五年にマインツ大学教授となつた。請求論文は、いまだ公刊されていない。学位論文は、Die Rechtspflicht zum Handeln bei den unechten Unterlassungsdelikten, 1957である。

著書

Strafvollzug zwischen Tradition und Reform, 1971.

Einführung in das Jugendstrafrecht, 1976.

論文

Behandlung der Verkehrsdelikte in Washington D. C. Zschr. f. Verkehrssicherheit 1957, S. 149 ff.

Jurist im Strafvollzug. Strafvollzug in Hessen. Festgabe für Prof. Dr. Krebs, 1960, S. 150 ff.

Methodische Probleme der Gleichstellung des Unterlassens

mit der Begehung. JuS 1961, S. 177 ff.

Zur Entwicklung des Jugendstrafrechts seit 1912. ZfStrVo 1962, S. 347 ff.

Die Behandlung in der Anstalt. Schriftenreihe der deutschen Vereinigung für Jugendgerichte und Jugendgerichtshilfen. Neue Folge Heft 5, 1963, S. 83 ff.

Die 5. Arbeitstagung der Vereinigung für Jugendgerichte und Jugendgerichtshilfen am 15. und 16. Oktober 1964 in Wiesbaden. ZfStrVo. 14. Jg., 1965, S. 59 ff.

Judo aus der Sicht des Lehrgangsleiters. ZfStrVo 14. Jg., 1965, S. 65 ff.

Anmerkungen zum Jugendstrafrecht. ZfStrVo 1967, S. 26 ff.

Jugendstrafvollzug. Rollmann (hrsgg.), Strafvollzug in Deutschland. Situation und Reform, 1967, S. 126 ff.

Gruppenarbeit mit jungen Straffälligen im Jugendstrafvollzug und im Rahmen der Bewährungshilfe — Zusammenfassender Bericht über die Beratungen des Arbeitskreises Ⅲ. Die Jugendkriminalrechtspflege im Lichte der kriminologischen Forschung, 1969, S. 112 ff.

Jugendkriminalität und ihre Bekämpfung in der sozialistischen Gesellschaft. Ein Tagungsbericht. ZfStrVo Jg., 18, 1969, S. 26 ff.

Gedanken zur Ausbildung der Aufsichtsbeamten. Erziehung zur Freiheit durch Freiheitsentzug. Festschr. f. A. Krebs, 1969, S. 265 ff.

Empfiehlt es sich, den Jugendstrafvollzug grundlegend zu ändern und ihn durch ein Jugendstrafvollzugsgesetz zu regeln? RdJ 1970, S. 250 ff.

Richterliche Mitwirkung bei Vollstreckung und Vollzug von Freiheitsstrafe. JuS 1971, S. 334 ff.

Neuere Entwicklung im Jugendstrafrecht und im Jugendstrafvollzug. ZSchr. f. prakt. Psychologie 1971, S. 58 ff.

Zu Bedeutung und Erfolg von Berufsausbildung im Jugendstrafvollzug. Die Deutsche Berufs- und Fachschule 1973, S. 267 ff.

Modern Juvenile Codes. — 6. Germany. IJOTCC vol. 1973, p. 184 ff.

Rückfall und Bewährung nach verbüßter Jugendstrafe. RdJBW Jg. 21, 1973, S. 33 ff.

Sonderprobleme des Vollzugs bei Jugendlichen und Jungtätern. Erhardt — Göppinger, Krim. Geg. Fr. Heft 11, 1974, S. 142 ff.

Auswirkungen eines Jugendhilfegesetzes auf den Jugendstrafvollzug. Überlegungen zur Problematik des Diskussionsentwurfs. ZfStrVo Jg. 23, 1974, S. 29 ff.

Nochmals: Grenzen staatlicher Zwangsbefugnisse gegenüber Untersuchungshäftlingen. JuS 1975, S. 287 ff.

Zur gegenwärtigen und künftigen Situation des Aufsichtsdienstes. Voraussetzungen für eine veränderte Laufbahnausbildung des allgemeinen Vollzugsdienstes. ZfStrVo Jg. 24, 1975, S. 10 ff.

Möglichkeiten und Grenzen der Resozialisierung im Jugendstrafvollzug. Schüler-Springorum – Krokowski, Jugendkriminalität und Resozialisierung. 1975, S. 37 ff.

Zum Problem des Vollzugs kurzzeitiger Jugendstrafen. Festschr. f. Schaffstein, 1975, S. 303 ff.

Helmut Künkler. Ein Nachruf. ZfStrVo 25. Jg., 1976, S. 241 ff.

Anstaltsleitung. Blau–Schwind, Strafvollzug in der Praxis, 1976, S. 109 ff.

ブルンス (Hans Jürgen Bruns)

〔刑一七・一・一一、一一〇七、昭三一一〇一、昭三六〇〕

著書

Strafzumessungslehre, 2. Aufl., 1974.

論文

Ein "neuer" Kommentar zum StGB 1975. GA 1976, S. 129 ff.

ブッシュ (Richard Busch)

〔刑一七・一・一一、一一〇五、昭三一一〇一一〕

Aus der Rechtsprechung des deutschen Bundesgerichtshofes in Karlsruhe. SchwZStrR Bd. 90, 1974, S. 92 ff., 428 ff.

Dietrich Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. JZ 1975, S. 385.

カリース (Rolf-Peter Calliess)

〔昭三六〇〕

一九六五年に、くゝーベー工科大学法学部教授に就任した。

論文

Die Rechtsnatur der „besonderen schweren Fälle" und Regelbeispiele im Strafrecht. JZ 1975, S. 112 ff.

クラーター (Peter Cramer)

〔刑一七・一・一一、一一〇三、一一・四、一一一一、昭三一一〇一一、三六一〕

著書

Unfallprophylaxe durch Strafen und Geldbußen? 1976.

Schönke — Schröder, StGB. 18. Aufl., 1976.

論文

Das Strafensystem des StGB nach dem 1. April 1970. Ein Beitrag zur Rechtsentwicklung durch das 1. StRG. JurA 1970, März Heft.

Überlegungen zur Neugestaltung des Sanktionsrechts im Verkehrsbereich. DAR 1975, S. 225 ff.

※ デンカー (Friedrich Dencker)

一九四二年三月一一日に、ベルリンで生まれた。ボン大学のグリューンワルトに提出した論文Willensfehler bei Rechtsmittelverzicht und Rechtsmittelzurücknahme im Strafprozess, 1972 により学位を取得し、後、助手を勤めていたが、此のほど、同じくグリューンワルトのもとで教授資格を得、現在、教授として活躍している。

その論文は、近く公刊されるという。Verwertungsverbote im Strafprozess. Ein Beitrag zur Lehre von den Beweisverboten, 1977.

論文

Zu den Voraussetzungen der Untersuchungshaft. NJW 1969, S. 304 f.

Die Anrechnung der Untersuchungshaft. MDR 1971, S. 627 ff.

Die Bagatelldelikte im Entwurf eines EGStGB. JZ 1973, S. 137 ff.

Belehrung des Angeklagten über sein Schweigerecht und Vernehmung zur Person—Anmerkung zu BGH MDR 1974, S. 765 ff. — MDR 1975, S. 359 ff,

※ ヘーベルト (Udo Ebert)

一九四〇年二月一八日に、ベルリンで生まれた。ベイテルベルヒ大学のゲラルド・ブロッシー教授に提出した論文Die Geschichte des Edikts de hominibus armatis coactisve, 1968により学位を取得した。その後、ベナク教授の助手となり、教授とともにマインツ大学に移った。一九七三年に、同大学の私講師となったが、教授資格請求論文は、Untersuchungen zur Struktur und rechtlichen Relevanz des sogenannten Subsumtionsirrtums (未公刊) であった。そして、一九七五年にビーレフェルト大学教授となった。

著書

Der Überzeugungstäter in der neueren Rechtsentwicklung. Zugleich ein Versuch zu einer Beurteilung de lege lata, 1975.

論文

Vi metusve causa. Savigny-Zeitschrift. Romanistische Abteilung, 1969, S. 403 ff.

Der praktische Fall. Strafrecht : Die verjüngte Schauspielerin. JuS 1970, S. 400 ff.

Der Eid als prozessuales Instrument - Zum Beschluß des BVerfG v. 11. 4. 1972. JR 1973, S. 397 ff.

Der Praktische Fall. Strafrecht : Ärztlicher Eifer. JuS 1976, S. 319 ff.

Fortschritt oder Rückschritt? Bemerkungen zum Verhält-

nis von Rechtsgeschichte und Kriminalpolitik. ZStrW. Bd. 89, 1977. (予定)

アイゼンベルク (Ulrich Eisenberg)

〔追Ⅲ六二〕

論文

Strafvollzug zwischen Sicherung und Kriminaltherapie. Der Bürger im Staate, Bd. 20, 1970, S. 151 ff.

Communauté pénitentiaire. Conseil d'Europe, 1972.

Über sozialtherapeutische Behandlung von Gefangenen. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 1042 ff.

エンゲル (S. W. Engel)

〔追Ⅲ六二〕

一九一四年一〇月二〇日に、シュトゥットガルトに生まれた。ハイデルベルヒ大学医学部に提出した論文 Über Anfallsparalysen により学位を取得し、その後、レフェレンツの主宰する同大学犯罪学研究所で助手をつとめていたが、Zur Metamorphose des Rechtsbrechers. Grundlagen einer Behandlungslehre, 1973 により、教授資格を取得し、現在、研究参与兼教授である。

論文

Über den Ausdruck der zyklothmen Depression. Archiv für Psychiatrie und Neurologie, Bd. 185, 1950, S. 511 ff.

Die depressiven Wellen des Tages. Fortschritte der Neurologie und Psychiatrie, 1957, Heft 6, S. 342 ff.

Über die Gebärde. Studium Generale, 10. Jg., 1957, Heft 5.

Forensische Psychotherapie bei Jugendlichen und Heranwachsenden. NJW 1958, S. 613 ff.

Zur phänomenologie von jugendlichen Banden. Deutsche Zeitschrift für gerichtliche Medizin, Bd. 49, 1960, Heft 4.

Zur Psychotherapie von jugendlichen Delinquenten. Acta Criminologiae et Medicinae Legalis Japonica, Vol. 27, No. 2, 1961, p. 3 ff.

Die Zeit des Gefangenen. G. Schaltenbrand (hrsgg.), Zeit in nervenärztlicher Sicht, 1963, S. 59 ff.

Kriminelle Episoden, Streß und ihre Behandlung. Journal of Correctional Medicine, Tokyo, 1963, S. 50 ff. (邦訳・日本の会議に出席して得た精神医学上および刑事学上の収穫)

Zur Metamorphose des Rechtsbrechers. Mschr Krim. 49. Jg., 1966, S. 151 ff.

Psychotherapy with Reactive and Chronic Delinquents. Journal of Offender Therapy, vol. 10, 1966, p. 1 ff.

Bemerkungen zum dritten Kongreß der Vereinten Nationen über Verbrechensverhütung und Behandlung Straffälliger im August 1965 in Stockholm. Der Nervenarzt, 38. Jg., 1967, Heft 9, S. 421 ff.

Offender Therapy in Prison and on the Outside. IJOT, vol. 11, 1967, p. 43 ff.

Zur Psychopathologie der Eigentumstäter. SchwZStrR. Bd. 83, 1967, S. 402 ff.

Psychotherapie im Gefängnis und in der Bewährung. Universitas, 22. Jg., 1967, Heft 10, S. 1079 ff.

The Behaviour of the Law-Breaker. Art and Psychopathology, 1969, p. 53 ff.

Towards an Integrated Clinical-Dynamic Criminology: A German Report. IJOTCC vol. 16, 1972, p. 45 ff.

From the Heidelberg Criminological Institute: A Case Report. IJOTCC vol. 16, 1972, p. 138.

Psychotherapy with German Gang-Boys. IJOTCC, vol. 17, 1973, p. 250 ff.

Existentialistic Treatment of a German "Drug Clan." IJOTCC, vol. 18, 1974, p. 58 ff.

Some Basic Principles of Offender Therapy: I. IJOTCC, vol. 19, 1975, p. 11 ff.

ヒルシュベルヒ (Karl Engisch)

〔刑一七・一・一一、一〇三、一三・四、一三一、追三一一〇三、追三六三〕

論文

Der nächste Schritt. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 1 ff.

Bemerkungen über Normativität und Faktizität im Ehrbegriff. Festschr. f. Lange, 1976, S. 401 ff.

Suizid und Euthanasie nach deutschem Recht. Eser(hrsgg.), Suizid und Euthanasie, 1976, S. 312 ff.

ヒーザー (Albin Eser)

〔刑一七・一・一一、一〇〇、一三・四、一三一、追三一一〇三、追三六三〕

著書（共著）

Eser — Schumann, Forschung im Konflikt mit Recht und Ethik. Zur Problematik von Zeugnisverweigerungsrecht, strafrechtlicher Immunität und freiem Datenzugang des Forschers, 1976.

Eser, Strafrecht I, 1976.

Schönke—Schröder, StGB 18. Aufl., 1976.

Suizid und Euthanasie als human- und sozial wissenschaftliches Problem, 1976.

論文

Zum Eigentumsbegriff im Einziehungsrecht. — Methodenkritische Bemerkungen zu BGH, 1 StR 261/71. JZ 1972, S. 141 ff.

Risiken und Privilegien des Forschers - Eine Problemanalyse-. Eser-Schumann (hrsgg.), op. cit., S. 7 ff.

Erscheinugsformen von Suizid und Euthanasie - Ein Typisierungsversuch. Eser (hrsgg.), op. cit., S. 4 ff.

Neues Recht des Sterbens? Einige grundsätzliche Betrachtungen, ebenda, S. 392 ff.

※ フェースト (Johannes Feest)

一九三九年に生まれた。マックス・プランク外国・国際刑法研究所員として活躍し、後、ブレーメン大学教授となる。編著や論文の数は必ずしも少なくはないが、学位も教授資格論文もなしに教授になつたそうであるが、その思想傾向がブレーメン大学の受け容れるところだつたからであろう。

フェーストはアメリカで社会学を学び、法社会学的な研究方法を身につけた人であるから、今後、この方面の研究を推進するプロジェクトを指導する研究者に育つかも知れない。しかし、その思想傾向がその大成に妨げとなる契機をはらんでいるように思われる。

編著

Feest — Lautmann (hrsgg.), Die Polizei. Soziologische Studien und Forschungsberichte, 1971.

Blankenburg—Feest, Profils, Polizisten und Prozesse. Kleinere Beiträge zur empirischen Rechtssoziologie, 1971.

Feest — Blankenburg, Die Definitionsmacht der Polizei. Strategien der Strafverfolgung und soziale Selektion, 1972.

Brusten — Feest — Lautmann. Die Polizei - eine Institution öffentlicher Gewalt. Analyse, Kritik, empirische Daten, 1975.

Thoss- Lautmann-Feest, Einstufige Juristenausbildung im Bereich strafrechtlicher Sozialkontrolle, 1976.

論文

Die Bundesrichter / Herkunft, Karriere und Auswahl der juristischen Elite. Wolfgang Zapf (hrsgg.), Beiträge zur Analyse der deutschen Oberschicht, 1965, S. 95 ff.

Notizen zur Idee einer Kommentierung des Strafgesetzbuchs in sozialwissenschaftlicher Absicht. Krit. Just. 1970, S. 459 ff.

Idee einer Kommentierung des Strafgesetzbuchs in sozialwissenschaftlicher Absicht. KrimJ 2, 1970, S. 259 ff.

Soziale Kontrolle und abweichendes Verhalten in Betrieben ("Betriebsjustiz"). KrimJ 3, 1971, S. 229 ff.

Kriminologische Forschung in Deutschland und empirische Untersuchungen am Max-Planck- Institut. Tagungsbericht. ZStrW. Bd. 83, 1971, S. 1131 ff.

Bierer-Blankenburg- Feest-Schönleitner-Spiegelberg-Stiller, Über die Sanktionswahrscheinlichkeit bei Bankräubern. Blankenburg — Feest (hrsgg.), Profils, Polizisten und Prozesse. 1971, S. 6 ff.

Die Situation des Verdachts. Feest — Lautmann, Die Polizei, op. cit., 1971, S. 71 ff.

Feest — Mezger-Pregizer, Betriebskriminalität und Betriebsjustiz. KrimJ 4, 1972, S. 83 ff.

Kriminologie. Axel Görlitz (hrsgg.), Handlexikon zur Rechtswissenschaft, 1972, S. 258 ff.

Betriebsjustiz : Organization, Anzeigebereitschaft und Sanktionsverhalten der formellen betrieblichen Sanktionsorgane. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 1125 ff.

Johannes u. Christa Feest, Alterskriminalität, Kinderkriminalität. Kaiser — Sack — Schellhoss, Kleines Kriminologisches Wörterbuch, 1974. S. 27 ff., 152 ff.

Polizeiliche Situationen und die Bagatellisierung von Delikten. Blankenburg (hrsgg.), Empirische Rechtssoziologie, 1975, S. 56 ff.

※ ドイツ (Gerhard Fezer)

一九三八年一〇月一九日に、ベーテン・ガルテンベルヒ州のトゥットリンゲンに生まれた。テュービンゲン大学のベウマン教授に提出した論文 Die Funktion der mündlichen Verhandlung im Zivilprozeß und im Strafprozeß, 1970 により学位を取得の後、助手として活躍していたが、Möglichkeiten einer Reform der Revision in Strafsachen. Eine Untersuchung unter besonderer Berücksichtigung der gegenwärtigen Vorschläge zur Rechtsmittelreform, 1975 により教授資格を取得し、同大学の私講師となった。そして、一九七六年にミュンスター大学の招聘を受け、研究参与兼教授となった。

著書（共著）

Baumann — Fezer, Beschleunigung des Zivilprozesses, 1970.

Die erweiterte Revision - Legitimierung der Rechtswirklichkeit? Inhaltsanalyse eines Jahrgangs unveroffentlichter Entscheidungen des Bundesgerichtshofs in Strafsachen. Reform der Justizreform, Bd. 3. 1974.

Reform der Rechtsmittel in Strafsachen. Bericht über die Entstehung der gegenwärtigen Rechtsmittelvorschriften und die Bemühungen um ihre Reform. 1974.

論文

Baumann — Fezer, Kritische Anmerkungen zur Zivilprozeßbeschleunigungsnovelle. ZRP 1970, S. 127 ff.

Zum gegenwärtigen Stand der Reform des § 218 StGB. GA 1974, S. 65 ff.

Die persönliche Freiheit im System des Rechtsgüterschutzes - Zur Problematik eines allgemeinen Nötigungstatbestandes. JZ 1974, S. 599 ff.

Zur Rechtsgutsverletzung bei Drohungen. JR 1976, S. 95 ff.

Zur jüngsten Auseinandersetzung um das Rechtsgut des

§ 240 StGB. GA 1975, S. 353 ff.

Grundfälle zum Verlesungs- und Verwertungsverbot. JuS 1977. (字足)

※ ヘルベルト (Herbert Fiedler)

ケルン大学のクルークに提出した論文 Vorhaben und Versuch im Strafrecht. Über ein Handlungsmodell der strafrechtlichen Versuchslehre, 1967. により学位を取得し、後、助手を勤めていた。この人は、本来、論理学に興味を持つていたようで、その後は、法情報学に力を注ぎ、一九七〇年に、ボン大学の教授となつた。教授資格論文は、不明である。

論文

Mathematik und moderne Logik. ARSP vol. 47, 1961, S.553 ff.

Rechenautomaten als Hilfsmittel der Gesetzesanwendung. Deutsche Rentenversicherung, 1962, S. 148 ff.

Probleme der elektronischen Datenverarbeitung in der offentlichen Verwaltung. Deutsche Rentenversicherung 1964, S. 40 ff.

Klug — Fiedler, Die Berücksichtigung der automatisierten Gesetzesausführung in der Gesetzgebung. Deutsche Rentenversicherung 1964, S. 269 ff.

Eindrücke zur Diskussion im Anschluß an die Referate auf der Strafrechtslehrertagung 1965 in Freiburg. ZStrW Bd. 77, 1965, S. 506 ff.

Juristische Logik in mathematischer Sicht. ARSP vol. 52, 1966, S. 93 ff.

Rechenautomaten in Recht und Verwaltung. JZ 1966, S. 689 ff.

Computer für die Justiz. Einige Thesen und Stichworte. JZ 1968, S. 556 f.

Automatisierung im Recht und Juristische Informatik. JuS 1970, S. 432 ff., 552 ff., 603 ff., 1971, S. 67 ff., 228 ff.

Forschungsaufgaben der Juristischen Informatik. Arthur Kaufmann (hrsgg.), Münchener Ringvorlesung. EVD und Recht — Moglichkeiten und Probleme, 1973, S. 229 ff.

Rechtsinformatik und juristiche Tradition. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 167 ff.

Methodische Erfordernisse juristischer Informationssysteme. Bemerkungen zur Entwicklung von JURIS. Friedrich Gebhardt (Hrsg.), Beitrage zur Methodik juristischer Informationssysteme, 1975, S. 7 ff.

※ マルチン (Martin Fincke)

一九三七年一〇月三〇日に、牧師エルンスト・フィンケの子供として、フランクフルトに生まれた。テュービンゲン、ボン、フランクフルトで法学を学び、一九六〇年から一年間、フルブライト留学

生として、ヨーネル大学に留学の後、ミュンヘン大学で学び、一九七三年に第一次国家試験に合格し、その後、レフェレンダールとなり、同時に、東欧法研究所の研究員となり、一九六八年に弁護士となるとともに、マウラッヘのもとで助手を勤め、若干の講義を担当した。一九七四年夏学期に、教授資格を取得し、ベルリン自由大学、レーゲンスブルク大学で授業を行なつた後、一九七六年冬学期に、ビーレフェルト大学教授に任ぜられた。学位論文は、Die aufsichtliche Überprüfung rechtskräftiger Strafurteile im Sovetrecht, 1966 であり、教授資格請求論文として、その一部が、Das Verhältnis des Allgemeinen zum Besonderen Teil des Strafrechts, 1975 として公刊されたが、目下、Die Begründung der Beschuldigtenstellung im Strafprozeß. Versuch einer Inkulpationslehre の準備がなされている。

編著

Legaler Mord durch Arzneimittelprüfung? Strafrechtliche Implikationen des Wirksamkeitsnachweises bei neuen Arzneimitteln, 1976.

論文

Die Kontrolle der sowjetischen Verwaltung. a) Ursprünge, Entwicklung, Gegenwart. Jahrbuch f. Ostrecht VI 2, 1965, S. 165 ff. b) Die Zeit der NEP aaO Ⅶ 1, 1966, S. 129 ff. c) Die Zeit des Stalinismus, aaO Ⅶ 2, 1966, S. 185 ff. d)Die Gegenwart, aaO Ⅷ 1, 1967, S. 81 ff.

Vorschläge zur Standardübersetzung russischer Bezeichnungen für Normativ- und Verwaltungsakte. Jahrb. f. Ostrecht, Ⅷ 1, 1967, S. 267 ff.

Verwertbarkeit von Aussagen des nicht belehrten Beschuldigten. NJW 1969, S. 1014 ff.

Der Verteidiger im sowjetischen Vorverfahren. Jb. f. Ostrecht, XI 2, 1970, S. 53 ff.

Darf sich eine Privatperson bei der Festnahme nach § 127 StpO irren? GA 1971, S. 41 ff.

Die Entwicklung der sowjetischen Kriminalpolitik nach Chruŝ ćev. Sowjetstaat und Sowjetrecht nach Chruschtschow 1971, S. 64 ff.

Noch ein Brief Lenins zur Staatsanwaltschaft. Osteuropa-Recht, 1972, S. 268 ff.

Das Risiko des privaten Festnehmers. JuS 1973, S. 87 ff.

Die Gewißheit als hochgradige Wahrscheinlichkeit. GA 1973, S. 266 ff.

Arrest, Bail, Civil Suit, Costs, Court Records, Defendant, Prescription, Prosecution, Remedies, Restraining Measures, Seizure, Traial, Victim. Encyclopedia of Soviet Law, Lyden, 1973.

Die Kompetenzverteilung zwischen der Union und den Unionsrepubliken auf dem Gebiet der Rechtspflege von 1922

bis 1972. Bundesstaat und Nationalitätenrecht in der Sowjetunion, 1974.

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens in der Sowjetunion. Jescheck — Meyer, Wiederaufnahme des Strafverfahrens im deutschen und ausländischen Recht, 1974, S. 633 ff.

Der Täter neben dem Täter. GA 1975, S. 161 ff.

Die Pflicht des Sachverständigen zur Belehrung des Beschuldigten. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 656 ff.

Drei Charakterzüge des sozialistischen Rechts. Szczesny (hrsgg.), Marxismus — ernst genommen, 1975, S. 131 ff.

Der bundesdeutsche Strafprozeß in sowjetischer Sicht. JZ 1976, S. 126 ff.

Risikoerhöhung als Kausalitätsersatz? Probleme der objektiven und individuellen Zurechnung bei wahrscheinlicher Kausalität. ZStrW Bd. 89, 1977 (予定)

※ フリッシュ (Wolfgang Frisch)

一九四三年五月一六日に、カーデン郡ウミルンスドルフ（現在、チェコスロバキア領）に生まれた。

一九七〇年に、エアランゲン大学のブルンスとシュペヤウスに提出した論文Revisionsrechtliche Probleme der Strafzumessung. Eine Untersuchung über die Struktur und Revisibilität des richterlichen Ermessens, 1971 により学位を取得し、その後、ブルンスのもとで助手として活躍していた。そして、一九七四年に、同じくブルンスとシュペヤウス、そしてクラインクネヒトに提出した論文 Grundlagen des Maßregelrechts（未公刊）により、教授資格を得、同年九月三〇日にエアランゲン大学私講師となり、直ちに、同年一〇月一六日に、ボン大学の研究参与兼教授となった。一九七六年三月七日に、マンハイム大学正教授に招聘され、赴任した。

論文

Die „verschuldeten" Auswirkungen der Tat. Zugleich ein Beitrag zur Irrtumsproblematik im Strafzumessungsrecht. GA 1972, S. 321 ff.

Drei Grundprobleme des Verschlechterungsverbots dargestellt am Beispiel der Sicherungseinziehung. MDR 1973, S. 715 ff.

Ermessen, unbestimmter Begriff und „Beurteilungsspielraum" im Strafrecht. NJW 1973, S. 1345 ff.

Das Verschlechterungsverbot – Grundfragen und neue Entwicklungen. JA 1974, S. 19 ff., 37 ff.

Der Begriff des „Verletzten" im Klageerzwingungsverfahren. JZ 1974, S. 7 ff.

Zum Wesen des Grundsatzes „in dubio pro reo". Festschr. f. Henkel, 1974, S. 273 ff.

なお、次のようなテーマを発表する予定があるという。

Der Begriff der „Gefahr" im Strafrecht.

Die Problematik der Lehre vom dolus eventualis.

Vom klassifikatorischen zum funktionalen Verbrechensbegriff.

Wahrscheinlichkeitsbegriffe im Recht.

Der befangene Staatsanwalt.

ゲーアツ (Friedrich Geerds)

〔明一七・一・一一　一九八三・四・一三〇　追二一〇五　追三六四〕

著書

Vernehmungstechnik. 5. neu bearbeitete Auflage, 1976.

論文

Zusammenhänge zwischen Wirtschaft und innerer Sicherheit aus kriminologisch - kriminalistischer Sicht. AKrim Bd. 158, S. 65 ff.

Über mögliche Reaktionen auf Ladendiebstähle. Ein Beispiel für das Dilemma der Rechtsentwicklung im Grenzbereich der Kriminalität. DRiZ 54. Jg., 1976, S. 225 ff.

ガイレン (Gerd Geilen)

〔明一七・一・一一　一九六三・四・一三〇　追二一〇六　追三六四〕

著書

Euthanasie und Selbstbestimmung, 1975.

Strafrecht. Allg. Teil, 2. Aufl., 1976.

論文

Sukzessive Zurechnungsfähigkeit, Unterbringung und Rücktritt. — BGH 23, 356. JuS 1972, S. 73 ff.

Zur Abgrenzung zwischen beendetem und unbeendetem Versuch. JZ 1972, S. 335 ff.

Zur Problematik der gewaltsamen Entführung (§ 237 StGB). JZ 1974, S. 540 ff.

Legislative Erwägungen zum Todesproblem. Eser (hrsgg.), Suizid und Euthanasie, 1976, S. 301 ff.

ゲッペルト (Klaus B. Geppert)

〔追三六四〕

一九七六年に、ベルリン自由大学教授となった。

著書

Freiheit und Zwang im Strafvollzug, 1976.

論文

Zur Abgrenzung von Betrug und Diebstahl, insbesondere in den Fällen des sogenannten "Dreiecks - Betruges". JuS 1977, S. 69 ff.

ギーリハク (Heinz Giehring)

〔追Ⅲ六五〕

一九四〇年一一月四日に、ベルリンで生まれた。一九七〇年に、ベルリン自由大学のプライとくイニッシに提出した論文 Der Missbrauch zur Unzucht unter Aussetzung der Amtsstellung im geltenden Recht (§ 174 Abs. 1 Nr. 2 1 Alt. StGB) und in der Strafrechtsreform, 1970 により、学位を取得し、ベルリン自由大学助教授となり、一九七四年には、ハンブルク大学教授となつたが、下級学年の学生の講義を担当する授業要員ともいうべき人である。西ドイツの大学改革の落とし子というべき制度である。

論文

Strafrechtsnormen und Kriminalität. Skizze einer Lerneinheit aus einer Einführungsveranstaltung für den Fachbereich Strafrecht und Kriminalität. KrimJ 1976, S. 114 ff.

ゲッピンガー

〔刑一七・一・二、一九六、三・四、一二九、追Ⅱ一一〇六、追Ⅲ六五〕

著書（編著）

Praxis der Begutachtung. Der psychiatrische Sachverständige im Verfahren, 1974.

Kriminologie. Eine Einführung. 3. Aufl., 1976.

Goppinger — Kaiser, Kriminologie und Strafverfahren. Neuere Ergebnisse zur Dunkelfeldforschung in Deutschland, 1976.

論文

Angewandte Kriminologie im Strafverfahren – Eine vorläufige Mitteilung. Göppinger–Kaiser, op. cit., S. 56 ff.

ゲッセル (Karl Heinz Gössel)

〔追Ⅲ六五〕

論文

Reinhard Maurach zum Gedächtnis. GA 1976, S. 289 f.

Abtreibung als Verwaltungsunrecht. JR 1976, S. 1 ff.

Dogmatische Überlegungen zur Teilnahme aus erfolgsqualifiziertem Delikt nach § 18 StGB. Festschr. f. Lange, 1976, S. 219 ff.

※ **グレービハク** (Gerhardt Grebing)

一九四二年一一月二一日に、マールブルク近郊のハルスドルフに生まれた。マールブルクとテュービンゲンで法学を学び、レフェレンダール、アセソアの試験に合格の後、フライブルクに行き、まず、ミュラー＝フライエンフェルスのもとで、外国・国際私法研究所の副手となつた。その後、イェシェックのもとで、学位論文を準備することとなり、その準備中に、エクス・アン・プロバンスにある刑事科学・犯罪学研究所に留学した。一九七〇年一〇月以後、フライブルクのマックス・プランク・外国・国際刑法研究所の所員

となり、フランス法の研究員となった。一九七一年には、イェッシェック教授の助手となっている。一九七四年には、国際刑法学会事務局員兼ドイツ部会事務局員となり、併せて、ヨーロッパ委員会刑法改正委員会にも加わっている。

一九七三年に、イェッシェックに提出した論文 Die untersuchungshaft in Frankreich. Entwicklung, Praxis und Reform, 1974 により学位を取得し、一九七七年五月に、教授資格請求論文を提出した (Die Geldstrafe. Untersuchung der deutschen Geldstrafenreform in rechtsvergleichender Sicht—未公刊)。

著書

Polizei und Staatsanwaltschaft im internationalen Vergleich, 1977.

論文

Tagung für Rechtsvergleichung vom 22. - 25. 9. 1971 in Mannheim - Arbeitssitzung der Fachgruppe Strafrechtsvergleichung (Tagungsbericht). JZ 1971, S. 792 ff.

Voies et possibilités d'une justice pénale européenne. Thème de la séance de droit comparé. RSCDPC 1971, p. 1027 ff.

Statistische Angaben über die Untersuchungshaft in Frankreich. Jescheck-Krümpelmann, Die Untersuchungshaft usw., 1971, S. 225 ff.

Wege und Möglichkeiten einer europäischen Strafrechtspflege (Diskussionsbericht). RIDP 1971, p. 96 ff. (französische Fassung, ebenda, p. 105 ff.).

Bibliographie du droit pénal européen. RIDP 1971, p. 115 ff.

Der Ⅷ. Internationale Kongreß für Sozialverteidigung vom 18. - 22. 11. 1971 in Paris (Tagungsbericht). ZStrW Bd. 84, 1972, S. 535 ff.

Grebing-Sessar, Frankreich. Jescheck- Löffler, Quellen und Schrifttum des Strafrechts, Bd. 1, Europa, 1972, S. 82 ff.

Die Möglichkeiten der Entschädigung des Opfers einer Straftat im französischen Recht. RIDP 1973, p. 338 ff.

Compte-rendu du Colloque préparatoire de l'Association internationale de droit pénal pour le Ⅺ^{e} Congrès international de droit pénal 1974 à Budapest sur la question Ⅲ "L'indemnisation des victimes de l'infraction pénale" (Fribourg-en-Brisgau, 4-6 Octobre 1973). RIDP 1973, p. 366 ff.

Die Geldstrafe. Tagung für Rechtsvergleichung 1973 vom 19. - 22. September 1973 in Hamburg. Bericht über die Arbeitssitzung der Fachgruppe Strafrechtsvergleichung vom 21. September 1973. ZSchrRVergl. 1974, S. 28 ff. (Französische Fassung : L'amende. Journées de l'Association allemande de droit comparé. Séance de droit pénal comparé (Hamburg, 21 septembre 1973). RSCDPC 1974, p. 700 ff.

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens in Frankreich.

Jescheck-Meyer, Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens usw., 1974, S. 297 ff.

Zur Entwicklung des Untersuchungshaftrechts in der Bundesrepublik Deutschland. ZSchrRVergl. 1975, S. 161 ff. (gekürzte französische Fassung : Les problèmes de détention préventive en République fédérale d'Allemagne. RSCDPC 1975, p. 957 ff.)

Die Entschädigung des durch eine Straftat Verletzten (Tagungsbericht). ZStrW Bd. 87, 1975, S. 472 ff.

Zur Frage der Schaffung eines internationalen Strafgerichtshofs. Bilanz und Perspektiven. GA 1976, S. 97 ff. (französische Fassung : La création d'une Cour pénale internationale : bilan et perspectives. RIDP 1976, p. 435 ff.)

Recht und Praxis der Tagessatz-Geldstrafe. JZ 1976, S. 745 ff.

Die Diskussionsbeiträge der Strafrechtslehrertagung 1975 in Göttingen (Tagungsbericht). ZStrW Bd. 88, 1976, S. 162 ff.

Probleme der Tagessatz - Geldstrafe. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 1049 ff.

グリューンヴァルト (Gerald Grünwald)

〔明一七・一・二一、一九四一、三・四、一二九、遺一一〇七、三六〕

論文

Die Strafprozeßreform — Sicherung oder Abbau des Rechtsstaates. Vorgänge 18, 1975, S. 36 ff.

Offene Frage im System der Hauptstrafen. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 219 ff.

Bedeutung und Begründung des Satzes》nulla poena sine lege《. Lüderssen-Sack, Abweichendes Verhalten II 1, 1976, S. 232 ff.

グシュヴィント (Martin Gschwind)

〔明一七・三・四、一二九、遺一一〇七、遺三六七〕

論文

Die nicht anders abwendbare Lebensgefahr oder große Gefahr dauernden schweren Schadens an der Gesundheit. Beitrag zur Auslegung von Artikel 120 des schweizerischen Strafgesetzbuches. SchwZStrR Bd. 71, 1956, S. 366 ff.

Die Verminderung der Zurechnungsfahigkeit in ihrer Bedeutung für den Betroffenen. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 66 f.

ハフケ (Bernhard Haffke)

〔遺三六七〕

一九七六年に、トゥビンゲン大学教授となった。

著書

Tiefenpsychologie und Generalprävention. Eine strafrechtstheoretische Untersuchung, 1976.

論文

Zur Problematik der 1. 3-Promille-Grenze – BGH St 21, 157. JuS 1972, S. 448 ff.

Delictum sui generis und Begriffsjurisprudenz. JuS 1973, S. 402 ff.

Wird das materielle Strafrecht von dem geplanten Strafvollzugsgesetz unterlaufen? MschrKrim. 58., Jg.,1975, S. 40 ff.

Gibt es ein verfassungsrechtliches Besserungsverbot? Zur rechtsschöpferischen Funktion von Angst. MschrKrim. 58. Jg., 1975, S. 246 ff.

Einschränkung des Beschlagnahmeprivileges des Verteidigers durch den Rechtsgedanken der Verwirkung? NJW 1975, S. 808 ff.

Unterlassung der Unterlassung? Zur logischen, ontologischen und teleologischen Kritik des Umkehrsprinzips bei Armin Kaufmann. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 44 ff.

Über den Widerspruch von Therapie und Herrschaft exemplifiziert an grundlegenden Bestimmungen des neuen Strafvollzugsgesetzes. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 607 ff.

ハナク (Ernst-Walter Hanack)

〔昭一七・一・一一、一九三一、三・四、一一九、昭三一一〇八、昭三六八〕

論文

Teilurteil und Rechtsmittelsumme. ZZP Bd. 72, 1959, S. 350 ff.

Bedürfnis und Methodenkritik einer Justizreform. ZZP Bd. 87, 1974, S. 405 ff.

Sozialtherapie und Unterbringung im psychiatrischen Krankenhaus nach § 63 StGB n. F. Bemerkungen zum Beschluß des OLG Karlsruhe vom 13. 5. 1975. JR 1976, S. 441 ff.

ハッセメー (Winfried Hassemer)

〔昭三二一〇九、昭三六八〕

共著

Kaufmann — Hassemer, Einführung in die Rechtsphilosophie und Rechtstheorie der Gegenwart, 1977.

論文

Kriminalsoziologische Paradigmata. JZ 1976, S. 164 ff.

Ellscheid — Hassemer, Strafe ohne Vorwurf. Lüderssen—Sack, Abweichendes Verhalten. II 1, 1976, S. 266 ff.

Die Mordmerkmale, insbesondere 》heimtückisch und niedrige Beweggründe《—BGHSt 23, 119. Lüderssen-Sack, op. cit., S. 315 ff.

Konstanten kriminalpolitischer Theorie. Festschr. f. Lange., 1976, S. 501 ff.

Rechtssystem und Kodifikation : Die Bindung des Richters an das Gesetz. Kaufmann-Hassemer, op. cit., 1977, S. 72 ff.

※ ハインツ (Wolfgang Heinz)

一九四二年に生まれた。ヴェルテンベルガーの助手を勤め Bestimmungsgründe der Anzeigebereitschaft des Opfers. Ein kriminologischer Beitrag zum Problem der differentiellen Wahrscheinlichkeit strafrechtlicher Sanktionierung, 1972 という論文で学位を取得し、その後、研究を続けていたが、一九七六年一月に教授資格を取得した。その論文は、Kriminalstatistik. Entwicklung, Probleme und Perspektiven であり、近く公刊の予定であるという。アウグスブルク大学とコンスタンツ大学から招聘されたが、一九七六年夏学期に、コンスタンツ大学教授となつた。

論文

Kriminalität und Massenmedien. Botschaft und Dienst. Monatsschr. f. Erwachsenenbildung. Jg., 24, 1970, S. 19 ff.

Die neue Polizeiliche Kriminalstatistik auf EDV - Basis. Terminologie, Gliederung und Zahlweise. Krim. 26. Jg., 1972, S. 148 ff.

Bestimmungsgründe der differentiellen Wahrscheinlichkeit strafrechtlicher Sanktionierung bei Unzucht mit Kindern (§ 176 Abs. 1, Ziff. 3 StGB). MschrKrim. 55. Jg., 1972, S. 116 ff.

Entwicklung, Aufgabe und Probleme der Kriminalstatistik. ZStrW Bd. 84, 1972, S. 806 ff.

Die Polizeiliche Kriminalstatistik in den Bundeslandern und in Westberlin. Synopse der auf Länderebene zusatzlich erfaßten Merkmale. Krim. 28. Jg. 1974, S. 62 ff., 122 ff.

Das System der Strafrechtspflegestatistiken: Koordination als Aufgabe und Problem. Allgemeines Statistisches Archiv, 1975, S. 95 ff.

Bekanntgewordene Kriminalität und praktische Erkenntnisinteressen. Erwägungen zur Umsetzung amtlicher Kenntnisse über Kriminalitat in numerische Informationen. Mschr Krim. 58. Jg., 1975, S. 225 ff.

Kriminalitätstheorien. Jung : Fälle zum Wahrfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 16 ff.

ヘルマー (Joachim Hellmer)

〔刑一七・一・二、一八八、三・四、一二八、遺Ⅱ一一〇九、Ⅲ六九〕

論文

Massenkriminalität. Die Polizei, 63. Jg., 1972, S. 333 ff., 385 ff.

Probleme bei der sozialen Diagnose und Therapie der Jugendkriminalität. Deimling — Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 139 ff.

Der Einfluß des Fremdverkehrs auf Kriminalität dargestellt an einem Kurort im Mittelgebirge. MschrKrim. Jg. 58, 1975, S. 174 ff.

Ursachen der Jugendkriminalität(Ätiologie). RdJBW 1975, S. 65 ff.

Kriminalität und Identität. Festschr. f. Lange, 1975, S. 573 ff.

ハインリヒ・ヘンケル (Heinrich Henkel)

〔刑一七・一・二、一八七、昭三六九〕

論文

Recht und Wert. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 13 ff.

リュディガー・ヘレン (Rüdiger Herren)

〔昭三一一〇、昭三七〇〕

論文

Die praktische Bedeutung der Kriminologie für die Kriminalistik. AKrim Bd. 157, 1976, S. 4 ff.

Der Kriminalist als Menschenkenner. AKrim Bd. 158, 1976, S. 129 ff.

ヨアヒム・ヘルマン (Joachim Herrmann)

〔刑一七・三・四、一三六、昭三一一一〕

論文

The Role of Compulsory Prosecution and the Scope of Prosecutional Discretion in Germany. The Univ. Chicago Law Review, vol. 41, 1974, p. 468 ff.

Strafrechtsreform in den Vereinigten Staaten. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 25 ff.

Die Strafprozeßreform vom 1. 1. 1975. JuS 1976, S. 413 ff.

ロルフ・ディートリヒ・ヘルツベルク (Rolf Dietrich Herzberg)

〔昭三七〇〕

論文

„Ne bis in idem" und zur Sperrwirkung des rechtskräftigen Strafurteils. JuS 1972, S. 113 ff.

Eingehungsbetrug und Vorteilsabsicht beim Erschleichen von Warenlieferungen zur Belästigung Dritter – Bay ObLG JZ 1972, 25. Jus 1972, S. 185 ff.

Konkurrenzverhältnisse zwischen Betrug und Erpressung – BGHSt 23, 294. JuS 1972, S. 570 ff.

Grundfälle zur Lehre von Täterschaft und Teilnahme. JuS

1976, S. 40 ff.

Die Problematik der „besonderen persönlichen Merkmale" im Strafrecht. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 68 ff.

ラインハルト・フォン・ヒッペル (Reinhard v. Hippel)

〔追Ⅱ2一一〇、追Ⅲ七一〕

著書

Reform der Strafrechtsreform. Maßregeln der Besserung und Sicherung, 1976.

論文

Die Strafzumessung und ihr Ruf. Festschr. f. Lange, 1976, S. 285 ff.

ハンス・ヨアヒム・ヒルシュ (Hans Joachim Hirsch)

〔刑一七・一・一一、一八一一、三・四、一一六、追Ⅱ1一一三、追Ⅲ七一〕

論文

Hans Welzel zum 70. Geburtstag. JR 1974, S. 102 f.

Gegenwart und Zukunft des Privatklageverfahrens. Festschr. f. Lange, 1976, S. 815 ff.

リヒャルト・ホーニヒ (Richard Honig)

〔刑一七・一・一一、一八一一、追Ⅱ1一一三、追Ⅲ七一〕

論文

Die Intimsphäre als Kriterium strafbaren Begehrens durch Unterlassen. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 89 ff.

Billigkeitserwägungen in Verfahrensurteilen des Bundesgerichtshofs. Festschr. f. Lange, 1976, S. 805 ff.

エッカハルト・ホルン (Eckhard Horn)

〔追Ⅲ七一一〕

著書（共著）

Systematischer Kommentar StGB. Bd. 1, Allg. Teil 1975, Bd. 2. Bes. Teil, 1976.

Die Strafrechtlichen Sanktionen. Eine systematische Darstellung für die Praxis der Strafrechtspflege, 1975.

論文

Wider die „doppelspurige" Strafhöhenzumessung. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 241 ff.

Geldstrafe bei Verheirateten : Ausgang vom halben Nettoeinkommen? JZ 1976, S. 585 ff.

ヨアヒム・フルシカ (Joachim Hruschka)

〔刑一七・三・四、一一六、追Ⅱ1一一四、追Ⅲ七一一〕

著書

Struktur der Zurechnung, 1976.

論文

Methodenprobleme bei der Tatzurechnung trotz Schuldunfähigkeit des Täters. Zugleich eine Apologie des Art. 12 SchwStrGB. SchwZStrR. Bd. 90, 1974, S. 48 ff.

※ ヒューナーフェルト (Peter Hünerfeld)

一九三八年四月一日に、ザクセン州のフライブルクに生まれた。フライブルク大学で法律学を学び、一九六〇年、一九六七年にそれぞれ、第一次、第二次国家試験に合格した。その間、学位論文の準備のため、ポルトガルのリスボン大学とコインブラ大学に留学した。一九六五年に、イェシェック教授の助手となり、一九六七年に、学位を取得した。論文は、Die Entwicklung der Kriminalpolitik in Portugal. である。一九六六年から、フライブルクのマックス・プランク・外国・国際刑法研究所の研究員となり、ポルトガル、ブラジル、メキシコ、ベネズエラの刑事法制の調査を担当している。

此のほど、教授資格請求論文 Strafrechtsdogmatik in Deutschland und Portugal - Ein rechtsvergleichender Beitrag zur Verbrechenslehre und ihrer Entwicklung in einem europäischen Zusammenhang を提出した。

※ フーペ (Erich Hupe)

一九三二年三月一九日に、ミンデンで生まれた。マールブルク大学のくルに提出した論文 Falsum, fraus und stellionatus im römischen und germanischen Recht bis zur Rezeption, 1967. により学位を取得し、後、助手を勤めていたが、一九七二年に、同大学研究参与兼教授となり、今日に至っている。くッセン州も、教授資格論文がない者でも、授業をもてる。

著書

Das System der Allgemeinen Strafrechtslehre, 1970.

論文

Hall — Hupe, Die Wiederholung des Klageerzwingungsverfahrens. JZ 1961, S. 360 ff.

Fälschungsdelikte, in : Handwörterbuch zur Rechtsgeschichte, Bd. 1, 1974.

Rechtlich Grenzen der Behandlung. Schüler-Springorum-Krokowski, Jugendkriminalität und Resozialisierung, 1975, S. 90 ff.

イェーガー (Herbert Jäger)

〔刑一七・一・二、一八一、三・四、一二五、追Ⅱ一一五、追Ⅲ七三〕

論文

Psychologie des Strafrechts und der strafenden Gesellschaft. Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhaten Ⅱ 1, 1976, S. 107 ff.

ヤコブス (Gunter Jakobs)

〔追Ⅱ2・一一一、追Ⅲ七三〕

著書

Schuld und Prävention, 1976.

論文

Verfassungsbeschwerde gegen die Art der Begründung gerichtlicher Entscheidungen. JZ 1971, S. 279 ff.

イェシェック (Hans-Heinrich Jescheck)

〔刑一七・一・一一、一八一、三・四、一一五、追Ⅱ1一一五、追Ⅲ七三〕

著書（編著）

Jescheck — Löffler, Quellen und Schrifttum des Strafrechts, Bd. Ⅱ. 1. Lieferung, 1973 ; 2. Lieferung, 1976.

論文

Das Strafrecht nach dem Truppenvertrag. ZStrW Bd. 65, 1953, S. 51 ff.

Beschlagnahme periodischer Durchschriften in rechtsvergleichender Darstellung. ZStrW Bd. 68, 1956, S. 651 ff.

Die internationalen Wirkungen der Strafurteile. ZStrW Bd. 76, 1964, S. 172 ff.

Rechtsvergleichung in Max-Planck-Institut für ausländisches und internationales Strafrecht. ZStrW. Bd. 79, 1967, S. 128 ff.

Modern Criminal Policy in the Federal Republic of Germany and the German Democratic Republic. Crime, Criminology and Public Policy. Essay in Honour of Sir Leon Radzinowicz, 1974, p. 509 ff.

Das neue deutsche Strafrecht im internationalen Zusammenhang. Max-Planck-Gesellschaft Jahrbuch 1975, S. 49 ff.

Richard Lange zum 70. Geburtstag. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 345 ff.

Das neue deutsche Strafrecht im Vergleich mit dem polnischen Recht. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 467 ff.

Deutsche und österreichische Strafrechtsreform. Festschr. f. Lange, 1976, S. 365 ff.

ヨハク (Hans-Heike Jung)

〔追Ⅲ七四〕

編著

Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975.

論文

Einführung in das Studium der Wahlfachgruppe „Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug". Jung, Falle zum Wahlfach op. cit., S. 1 ff.

Möglichkeiten und Grenzen eines Behandlungsvollzuges, ibid., S. 175 ff.

Behandlung und Sicherheit und Ordnung, ibid., S. 187 ff.

Weiterbildung der Gefangenen – Eine Aufgabe des Vollzugs. ZfStrVo Jg. 24, 1975, S. 136 ff.

カイザー (Günther Kaiser)

〔昭一七・一・一一、一九六一・四、一一四、渡三一一六、渡三七五〕

著書（編著）

Stand und Entwicklung der kriminologischen Forschung in Deutschland, 1975.

Genetics and Crime, 1975.

Kriminologie. Eine Einführung in die Grundlagen, 3. Aufl., 1976.

Kaiser – Mezger-Pregier, Betriebsjustiz, 1976.

Göppinger–Kaiser, Kriminologie und Strafverfahren. Neuere Ergebnisse zur Dunkelfeldforschung in Deutschland. Krim Geg. Fr. Heft, 12, 1976.

論文

Probleme, Aufgaben und Strategien kriminologischer Forschung heute. ZStrW Bd. 83, 1971, S. 881 ff.

Tasks and Activities of the Criminological Research Unit at the Max-Planck-Institut. Act. Crim. Med. Leg. Jap. Vol. 41, 1975, p. 221 ff.

Kriminologische Aspekte der Erpressung. Gewaltkriminalität und Erpressung. Tagungsberichte, 1972 u. 1974, 1975, S. 80 ff.

Strafrechtsvergleichung und vergleichende Kriminologie. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 79 ff.

Aufgaben und Rolle der Kriminologie—unter besonderer Berücksichtigung des deutschsprachigen Bereiches im Vergleich mit den angloamerikanischen Ländern. Neue Perspektiven in der Kriminologie, 1975, S. 13 ff.

Jugendstrafrecht oder Jugendhilferecht. Tendenzen in der Entwicklung des Jugendrechts. ZRP 8. Jg., 1975, S. 212 ff.

Recent Developments in German Penal Policy. IJCP vol. 4, 1976, p. 193 ff.

Was ist eigentlich kritisch an der "kritischen Kriminologie"? Festschr. f. Lange, 1976, S. 521 ff.

Role and Reaction of the Victim and the Policy of Diversion in Criminal Justice Administration. Criminology between the Rule of Law and the Outlaws. Volume in Honor of Willem H. Nagel, 1976, P. 159 ff.

Ansprache zur Begrüßung und Eröffnung. Göppinger–Kaiser, op. cit., S. 1 ff.

アルミン・カウフマン (Armin Kaufmann)

〔刑一七・一・一一、一七七、追Ⅱ一一一八、追Ⅲ七六〕

論文

Hans Welzel 70 Jahre. JZ 1974, S. 237 f.

アルトゥール・カウフマン (Arthur Kaufmann)

〔刑一七・一・一一、一七六、追Ⅱ一一一八、追Ⅲ七六〕

著書（編著）

Tendenzen im Rechtsdenken der Gegenwart, 1976.

Kaufmann-Küchenhoff-Zippelius, WEX Rechtsphilosophie, 1976.

Kaufmann-Hassemer, Einführung in die Rechtsphilosophie und Rechtstheorie der Gegenwart, 1977.

論文

Lebenslänglich. Radius, 1975, S. 44 ff.

Schuldprinzip und Verhältnismäßigkeitsgrundsatz. Festschr. f. Lange, 1976, S. 27 ff.

Friedrich Carl von Savigny. Enzykl. Die Goßen der Weltgeschichte, Bd. 7, 1976, S. 402 ff.

Prüfungsgespräch über Widerstandsrecht. Kaufmann us., op. cit., 1976, S. 139 ff.

Rechtsphilosophie, Rechtstheorie, Rechtsdogmatik. Kaufmann-Hassemer, op. cit., 1977, S. 1 ff.

Recht und Gerechtigkeit in schematischer Darstellung, ebenda, S. 273 ff.

ヒルデ・カウフマン (Hilde Kaufmann)

〔刑一七・一・一一、一七四、追Ⅱ一一一九、追Ⅲ七七〕

編著

Jugendliche Straftäter und ihre Verfahren, 1975.

論文

Die Kriminalität Jugendlicher und wir : Repression oder Vorbeugung durch Erziehung, 1974.

Die Gefängnissubkultur. Deimling — Häußling ; Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 105 ff.

Strafvollzugsreform und Klassifikation. Festschr. f. Lange, 1976, S. 587 ff.

ハンス・ケーナー (Hans-Jürgen Kerner)

〔追Ⅲ七七〕

一九七三年に、テュービンゲン大学講師となり、同年、ヒーレフェルト大学教授に招聘された。そして、一九七六年に、ハンブルク大学教授となった。

大くん頭の良い、精力的な若手犯罪学者の一人である。

論文

Kriminalitätsentwicklung und Kriminalstatistik. Jung, Fälle

zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 91 ff.

Jack-Kerner, Professional and organized Crime—A comparative Approach. IJCP vol. 4, 1976, P. 113 ff.

Strafvollzug und Rückfälligkeit. Zur Konstruktion von Daten in der Strafrechtspflege. KrimJ., 8. Jg., 1976, S. 184 ff.

Die Stellung der Prävention in der Kriminologie. Teil A: Grundlegende Probleme der Kriminalprävention. Teil B: Ansatzpunkte für polizeiliche Präventionsstrategie. Krim. 1976, S. 1 ff., 57 ff.

Normbruch und Auslese der Bestraften. Ansätze zu einem Modell der differentiellen Entkriminalisierung. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 137 ff.

キールヴァイン (Gerhard Kielwein)

〔刑一七・一・一一、一七一一、追三七〇〕

論文（追加）

Die Strafrechtsentwicklung in England. ZStrW Bd. 65, 1953, S. 32 ff.

Das neue englische Beleidigungsrecht. ZStrW Bd. 65, 1953, S. 141 ff.

Der Verbrauch der Strafklage im englischen Strafverfahren. ZStrW Bd. 68, 1956, S. 163 ff.

キーナプフェル (Diethelm Kienapfel)

〔刑一七・一・一一、一七一、三・四、一一四、追二一一九、追三七〇〕

著書

Einführung in das österreichische Strafrecht. Lernprogramm, 1974.

Strafrecht. Allgemeiner Teil. Eine Einführung in programmierter Form, 1975.

Strafrechtsfälle. Anfleitung—Aufbaumuster—Falllösungen—Falltechnik, 4. Aufl., 1976.

論文

Probleme der Einheitstäterschaft. Strafrechtliche Probleme der Gegenwart, 1973, S. 63 ff.

Die Garantenpflichten (§ 2 österr. StGB): System, Voraussetzungen und Grenzen. JurBl. 1975, S. 13 ff., 80 ff.

Zur Täterschaftsregelung im StGB. Eine Erwiderung auf den gleichnamigen Beitrag von Burgstaller in RZ 1975, 13 ff., 29 ff. ÖRiZ 1975, S. 165 ff.

Die Verletzung der Unterhaltspflicht (§ 198 StGB). ÖRiZ 1976, S. 46 ff.

クラインクネヒト (Theodor Kleinknecht)

〔追二一一〇、追三七九〕

著書

StPO. 32. Aufl., 1975.

論文

Führungsaufsicht. Rechtliche Regelung. Schwind-Blau, Strafvollzug in der Praxis, 1976, S. 408 ff.

クルーク (Ulrich Klug)

〔刑一七・一・二′一七一′追Ⅱ一一二一′追Ⅲ七九〕

ケンブルク市の司法大臣である。

著書

Aktienstrafrecht, 1975.

論文

Klug-Fiedler, Die Berücksichtigung der automatisierten Gesetzesausführung in der Gesetzgebung. Deutsche Rentenversicherung, 1964, S. 269 ff.

Elektronische Datenverarbeitungsmaschienen im Recht. Festschr. f. Hermann Jahrreiss. 1964, S. 189 ff.

Rechtfertigung oder Abschaffung des Strafrechts? Deimling u. Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 13 ff.

Die rechtspolitische Bilanz der Freien Demokraten. ZRP 9. Jg., 1976, S. 218 ff.

コールマン (Günter Kohlmann)

〔刑一七・三・四′一二四′追Ⅱ一一一一′追Ⅲ七九〕

著書

Steuerstrafrecht. 2. Aufl., 1976.

論文

Zur Frage der Vorteilsabsicht bei der Steuerhinterziehung (§ 392 AO). Festschr. f. Lange, 1976, S. 439 ff.

クラウゼ (Friedrich-Wilhelm Krause)

〔刑一七・一・二′一六九′追Ⅱ一一二二′追Ⅲ七九〕

一九七五年に′ヴュルツブルク大学に転任した。

論文

Vollstreckung von Vollstreckungshaftbefehlen in der Wohnung oder den sonstigen Räumen eines unbeteiligten Dritten. NJW 1974, S. 303 ff.

クラウス (Detlev Krauß)

〔刑一七・三・四′一一三′追Ⅱ一一二三′追Ⅲ七九〕

論文

Richter und Sachverständiger bei der Bestimmung von Schuld und Sanktion. Jung, Falle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 52 ff.

Das Prinzip der materiellen Wahrheit im Strafprozeß.

Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 411 ff.

Schuldzurechnung und Schuldzumessung als Probleme des Sachverständigenbeweises. Goppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 88 ff.

クレプス (Albert Krebs)

〔刑一七・一・二、一六九、三・四、一二三、追Ⅱ1一二三、追Ⅲ八〇〕

論文

Behandlungsziele des Vollzugs der Freiheitsstrafe in Deutschland seit der Aufklärung. Deimling-Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 89 ff.

Fürsorgeerziehung als Lebensschulung (Karl Wilker zum 90. Geburtstag). UJ 27. Jg., 1975, S. 541 ff.

Zum Zusammenwirken von Strafvollzug und ehrenamtlicher Hilfe. ZfStrVo 25. Jg., 1976, S. 45 ff.

Nichtdeutsche im bundesdeutschen Strafvollzug. Schwind-Blau, Strafvollzug in der Praxis, 1976, S. 343 ff.

※ **クロイツター** (Arthur Kreuzer)

一九三八年九月二六日に、ケンプルクで生まれた。ケンケルのあとに提出した論文Ärztliche Hilfeleistungspflicht bei Unglücksfällen im Rahmen des § 330c StGB (Strafgesetzbuch), 1965で

学位を取得し、その後、助手をつとめ、ドイツ研究財団の教授論文執筆者奨学生となり、一九七五年に犯罪学と刑法の教授資格を取得した。請求論文は、Drogen und Delinquenz — eine jugendkriminologisch-empirische Untersuchung der Erscheinungsformen und Zusammenhänge, 1975であり、特定の指導教授はなかった。一九七六年九月に、ギーセン大学教授に就任した。

論文

Die unterlassene ärztliche Hilfeleistung in der Rechtsprechung, insbesondere die Untersuchungspflicht des Krankenhausarztes. NJW 1967, S. 278 ff.

Die strafrechtliche Haftung des Krankenhausarztes gegenüber dem Außenpublikum. Med. Klinik 1967, S. 850 ff., 889 ff.

Zuständigkeitsübertragungen bei Verfassungsrichterwahlen und Immunitätsentscheidungen des Deutschen Bundestages. Der Staat, 1968, S. 183 ff.

Die Briefskontrolle in der Untersuchungshaft. GA 1968, S. 236 ff.

Wie schützt das Recht den Arzt vor unnötiger Inansprucnahme? Therapie der Gegenwart 1969, S. 929 ff.

Zur „Negativfunktion" der Feststellungen in Bebanungsplänen. Z. f. Miet- und Raumrecht 1969, S. 131 f.

Kontroverse Rechtsprechung zum Schriftenbezug durch Strafgefangenen - ein Beitrag zur Frage der Einschränkbar-

keit von Grundrechten im Strafvollzug—. GA 1970, S. 65 ff.

Rocker-Gruppen-Kriminalität - Betrachtungen zur deutschen Variante eines internationalen Jugend- Phänomens. Mschr Krim. 1970, S. 337 ff., auch in : UJ 1970, S. 407 ff. (Un example de délinquance juvénile de groupe 'Les Rockers'. Revue Internationale de Police Criminelle, no. 254, 1972, p. 2 ff.)

Drogenwesen und Kriminalrecht. A. Mergen (Hrsg.), Medizinisch-juristische Grenzfragen Bd. I, 1971, S. 170 ff., auch : Aktuelle Fragen des Drogenwesens in der Jugendkriminalrechtspflege. ZRP 1971, S. 111 ff., auch in : Drogen- und Rauschmittelmißbrauch, 1972, S. 136 ff.

Ärztliche Hilfeleistungspflicht in der Sicht des Strafrechts. A. Mergen, op. cit., S. 217 ff.

Rocker - als Gegenstand kriminologischen Bemühens- eine Erwiderung auf die Kritik von H. E. Wolf. MschrKrim. 1972, S. 148 ff.

Wie soll man jugendliche Kriminelle behandeln? Radius, 1972, Heft 4, S. 39 ff.

Kriminologische, kriminalpolitische und strafjustizielle Aspekte des Drogenwesens in der Bundesrepublik. H. Schäfer (Hrsg.), Grundlagen der Kriminalstatistik Bd. 9, 1972, S. 243 ff.

Kriminologische und kriminalpolitische Aspekte der Drogenproblematik— erste Ergebnisse einer Erkundungsstudie —. Krim. 1973, S. 99 ff., 167 ff.

Apothekeneinbrüche und verwandte Delinquenzmuster, Krim. 1973, S. 500 ff., 548 ff.

Aktuelle Fragen der Briefkontrolle bei Untersuchungsgefangenen. NJW 1973, S. 1261 f.

Beschaffen von Drogen durch Rezeptfälschen. Die Polizei 1973, S. 351 ff.

Straßenverkehrsdelinquenz im Zusammenhang mit Drogenmißbrauch. Blutalkohol 1974, S. 329 ff.

Selbstmord und Krankheiten im Zusammenhang mit Drogenmißbrauch. Jugendschutz 1974, S. 81 ff.

Parasitäre Erscheinungsformen der Delinquenz Drogenabhängiger. Krim. 1974, S. 269 ff., 309 ff.

Drogen-Szene und polizeiliche Drogenkontrolle. MschrKrim. 1974, S. 214 ff., auch in : K. H. Reuband (Hrsg.), Rauschmittelkonsum, 1976, S. 125 ff.

Erschleichen ärztlicher Verschreibungen. Med. Klinik 1974, S. 252 ff.

Illegales Herstellen und Fälschen von Drogen, Handel mit gefälschten Drogen. Die Polizei 1974, S. 38 ff.

Der illegale Drogenhandel. Die Polizei 1974, S. 104 ff.

Aggressionsdelinquenz im Zusammenhang mit Drogenmiß-

brauch. RdJBW 1974, S. 81 ff.

Drogenmißbrauch und seine Bekämpfung—Bericht über ein internationales kriminalpolitisches Symposion—Suchtgefahren 1974, S. 206 ff.

Verleiten junger Menschen zum Drogenmißbrauch. UJ 1974, S. 97 ff.

Drogenmißbrauch und illegale Drogenbeschaffung in Haftanstalten, Kliniken und anderen Einrichtungen. ZblJRuJW 1974, S. 214 ff.

Der Drogenmißbrauch und seine Bekämpfung. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 379 ff.

Verfolgung oder Hilfe? K. Wanke (Hrsg.), Drogenkonsum und Abhängigkeit, 1974.

Delinquenzbelastung bei Fixern. Neue Praxis 1975, S. 163 ff., auch in : Keup(Hrsg.), Mißbrauch chemischer Substanzen, 1975, S. 208 ff., mit dem Titel Delinquenzbelastung und Prädelinquenz bei Drogenkonsumenten, insbesondere Fixern.

Die Schweigepflicht von Krankenhausärzten gegenüber Aufsichtsbehörden. NJW 1975, S. 2232 ff., auch in : Med. Klinik 1976, S. 1396 ff., 1467 ff., 1520 ff., mit dem Titel "Zur Schweigepflicht von Ärzten öffentlicher Krankenhäuser".

Schülerbefragung zur Delinquenz. RdJBW 1975, S. 229 ff.

Schülerbefragung zur Delinquenz—eine Sammelbesprechung. Kritik eines nur sozioökonomischen Schichtendenkens. UJ 1975, S. 431 ff.

Zur Reform des Drogenstrafrechts—Kritik des Novellierungsautrags zum Betäubungsmittelgesetz—. ZRP 1975, S. 206 ff.

Über kriminologische Dunkelfeldforschung, Bemerkungen zum Stand, zu Methoden und Problemen dieser Forschung in der BRD. Krim. 1976, S. 145 ff.

Tatsächliche und polizeilich erfaßte Jugenddelinquenz sowie Betrachtungen zur Bedeutung des Dunkelfeldes. H. Schäfer (Hrsg.), Grundlagen der Kriminalstatistik, 1976.

クレイ (Volker Krey)

〔昭三〇〕

ビーレフェルトを経て、一九七五年に、新設のトリニー大学教授となった。

著書

Strafrecht. Besonderer Teil, Bd. 1 u. 2, 2. Aufl., 1975.

論文

Krey-Meyer, Zum Verhalten von Staatsanwaltschaft und Polizei bei Delikten mit Geiselnahme. ZRP 6. Jg., 1973, S. 1 ff.

Probleme der Notigung mit Gewalt—dargestellt am Bei-

spiel des Fluglotsenstreiks. JuS 1974, S. 418 ff.

Der Fall Peter Lorenz—Probleme des rechtfertigenden Notstandes bei der Auslosung von Geiseln. ZRP 8. Jg., 1975, S. 97 ff.

クニーメルヤニトル (Justus Krümpelmann)

〔遺稿〕

論文

Bericht über ein Kolloquium anläßl. der konstituierenden Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts für ausländisches und internationales Strafrecht, Freiburg i. Br., am 28. II. 1967. ZStrW Bd. 79, 1967, S. 390 ff.

Probleme der Untersuchungshaft im deutschen und ausländischen Recht. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 1052 ff.

Vorsatz und Motivation. Koll. Str. Vgl. 1975, S. 53 ff.

Vorsatz und Motivation. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 888 ff.

Dietrich Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 1 ff.

Die Neugestaltung der Vorschriften über die Schuldfähigkeit durch das Zweite Strafrechtsreformgesetz vom 4. Juli 1969. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 6 ff.

Aktuelle Probleme des Haftrechts in empirischer und verfahrensrechtlicher Sicht. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 44 ff.

キニーキ (Hans Heiner Kühne)

〔遺稿〕

編著

Hans Heiner Kühne - Hennige Schwaiger, Zum Recht der Heilbehandlung durch Psychologen, 1976.

論文

Das Urteil des Bundesgerichtshofs zur Entlohnung der Arbeit von Strafgefangenen. EuGRZ 2. Jg., 1975, S. 230 ff.

Drogenprobleme und ihre Bekämpfung in südost-asiatischen Ländern. Krim. 1975, S. 65 ff., 116 ff.

Drogenberatungsstelle in der Bundesrepublik Deutschland. MschrKrim. 1975, S. 109 ff.

Konzipierung empirischer Untersuchungen und ethische Implikationen. Jung, Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 121 ff.

Prostitution als bürgerlicher Beruf? ZRP 8. Jg., 1975, S. 184 ff.

Zu Fragen eines Berufsrechts für Diplompsychologen für Psychotherapie. Kühne — Schwaiger, op. cit., S. 17 ff.

Ethische Fragen beim Einsatz von Forschungsmethoden in der empirischen Sozialforschung. Eser — Schumann, For-

schung im Konflikt mit Recht und Ethik, 1976, S. 353 ff.

キューパー (Wilfried Küper)

〔追Ⅲ八一〕

一九七六年夏学期から、ハイデルベルヒ大学教授となった。

論文

Die Merkmale „absetzt" und „absetzen hilft" im neuen Hehlereitatbestand—OLG Köln NJW 1975, 987. JuS 1975, S. 633 ff.

Zum rechtfertigenden Notstand bei Kollision von Vermögenswerten. JZ 1976, S. 515 ff.

Wahlfeststellung und Anwendung des § 158 StGB bei einander widersprechenden Zeugenaussagen. NJW 1976, S. 1828 ff.

Probleme der „Postpendenzfeststellung" im Strafverfahren. Ein Beitrag zur Logik und Dogmatik der Wahlfeststellung. Festschr. f. Lange, 1976, S. 65 ff.

ラックナー (Karl Lackner)

〔刑一七・三・四、一〇一、追Ⅱ一一四、追Ⅲ八一〕

論文

Gedanken zur Reform des Tatbestandes der Unfallflucht. ZVR 20. Jg., 1975, S. 118 ff.

Die Neuregelung des Schwangerschaftsabbruchs. NJW 1976, S. 1233 ff.

ラハペ (Ernst Joachim Lampe)

〔刑一七・三・四、一〇〇、追Ⅱ一一五、追Ⅲ八三〕

論文

Ermittlungszuständigkeit von Richter und Staatsanwalt nach dem 1. StVRG. NJW 1975, S. 195 ff.

Strafrechtlicher Schutz gegen irreführende Werbung(§ 4 UWG). Festschr. f. Lange, 1976, S. 455 ff.

Strafrechtliche Probleme der progressiven Kundenwerbung. GA 1977, S. 33 ff.

ラハグ＝ヒハンクセハ (Dietrich Lang-Hinrichsen)

〔刑一七・三・四、一九九、追Ⅱ一一五、追Ⅲ八三〕

一九七五年三月一日に、心筋梗塞のため死去した。七三歳であった。西ドイツの刑法学者としては、国際会議に数多く出席し、得意な語学力で活躍していた。最近の若い世代には、このように国際的な幅広い活動をする者が増えつつあるが、その世代が育つまで、充分に、橋渡しの役をつとめたというべきである。死の直前まで、すぐれた仕事をしていた態度は、さすがである。

ラング＝ヒンリクセンに関する追悼文には、次のものがある。Richard Busch, Dietrich Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. JZ 1975, S. 385 ; Eduard Dreher, Dietrich Lang-Hinrichsen †.

NJW 1975, S. 1262 ; Justus Krümpelmann, Dietrich Lang-Hinrichsen zum Gedächtnis. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 1 ff.

論文

Epoché und Schuld. Über den von strafrechtlicher Schuldbeurteilung ausgeschlossenen Raum. Recht und Wirtschaft in Geschichte und Gegenwart. Festschr. f. Johannes Bärmann, 1975, S. 583 ff.

ラーンゲ (Richard Lange)

〔刑一七・三・四、一九七、追Ⅱ一一二六、追Ⅲ八三〕

一九七六年四月二九日に、七〇歳の誕生日を迎えた。引退の後も、執筆活動に従事している。七〇歳の誕生日に寄せられた祝賀文には、次のものがある。Hans- Heinrich Jescheck, Richard Lange zum 70. Geburtstag. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 345 ff. ; Claus Roxin, Richard Lange siebzig Jahre. JZ 1976, S. 252 ; Hans Joachim Hirsch, Richard Lange zum 70. Geburtstag. JR 1976, S. 150 f. ; Eduard Dreher, Richard Lange zum 70. Geburtstag. NJW 1976, S. 707.

その七〇歳の誕生日には、Festschrift für Richard Lange zu seinem 70. Geburtstag, 1976 が寄せられた。

論文

Das Problem der Objektivität im Recht. Universitätstage. Marxismus—Lenismus. Geschichte und Gestalt, 1961, S. 104 ff.

Privilegierung des Ladendiebes? JR 1976, S. 177 ff.

Der „gezielte Todesschuß". Zum Musterentwurf eines Polizeigesetzes. JZ 1976, S. 546 ff.

ラーンガー (Winrich Langer)

〔追Ⅲ八四〕

論文

Vorsatztheorie und strafrechtliche Irrtumsregelung. —Zur Kompetenzabgrenzung von Strafgesetzgebung, Verfassungsgerichtsbarkeit und Strafrechtswissenschaft.GA 1976, S. 193ff.

Zum Begriff der „besonderen persönlichen Merkmale". Festschr. f. Lange, 1976, S. 241 ff.

レフレンツ (Heinz Leferenz)

〔刑一七・三・四、一九五、追Ⅱ一一二七、追Ⅲ八四〕

論文

Die Neugestaltung der Vorschriften über die Schuldfähigkeit durch das Zweite Strafrechtsreformgesetz vom 4. Juli 1969. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 40 ff.

※ ライビンガー (Rudolf Leibinger)

一九二八年八月五日に、シュワルツワルトのトゥリンゲルンに生まれた。フライブルク大学で法学を学び、一九五二年に、Streitgegen-

stand und Rechtskraft in Ehesachen という論文で学位を取得した後、一九五七年から六五年まで、マックス・プランク・外国・国際刑法研究所員として、主に北欧法の研究員をしていたが、一九六六年から七四年まで、ベーテン＝ヴェルテンベルヒ州司法省、さらに高等検察庁の検事となつた。一九七四年に、コンスタンツ大学の招聘をうけて、教授となつた。教授資格論文はない。

論文

Die ungarische Strafprozeßordnung. ZStrW Bd. 69, 1957, S. 674 ff.

Tagung für Rechtsvergleichung 1965, Kiel 8. - 11. 9. JZ 1966, S. 536.

La protection des droits des personnes suspectées, inculpées ou accusées d'infractions à la loi pénale. Allemagne Fédérale. RIDP vol. 37, 1966, p. 11 ff.

Hans-Heinrich Jescheck zum 60. Geburtstag. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 9 ff.

レンクナー (Theodor Lenckner)

〔刑一七・三・四、一九三、追Ⅱ1一一八、追Ⅲ八四〕

著書（共著）

Schönke—Schröder, StGB. 18. Aufl., 1976.

論文

Zum Tode von Horst Schröder. JZ 1976, S. 799 f.

※　**ロース** (Fritz Loos)

ボン大学のゲッツルッツルに提出した Zur Wert- und Rechtslehre Max Webers, 1970 という論文により学位を取得し、後、助手となつた。一九七六年に、同大学私講師、そして直ちに、ゲッティンゲン大学教授となつた。教授資格請求論文は、まだ公刊されていない模様である。

論文

Zum „Rechtsgut" der Bestechungsdelikte. Festschr. f. H. Welzel, 1974, S. 879 ff.

リューダーセン (Klaus Lüderssen)

〔追Ⅱ1一一九、追Ⅲ八五〕

編著

Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten. Die selektive Normen der Gesellschaft. Bd. 1, 1975.

Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten II 1. Die gesellschaftliche Reaktion auf Kriminalität, 1976.

論文

Wolfgang Preiser zum 70. Geburtstag. JZ 1973, S. 132 f.

Strafrecht und Dunkelziffer. Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten I, op. cit., S. 244 ff.

Die empirische Seiten des rechtlichen, insbesondere des strafrechtlichen Werturteils. Lüderssen—Sack, Abweichendes

Verhalten, II 1, op. cit., S. 139 ff.

Dialektik, Topik und „konkretes Ordnungsdenken“ in der Jurisprudenz. Festschr. f. Lange, 1976, S. 1019 ff.

マイホーファー (Werner Maihofer)

〔刑一七・三・四、一九〇、追Ⅱ2七一、追Ⅲ八五〕

論文

Freiheit und Sicherheit im Rechtsstaat. DRiZ 54. Jg., 1976, S. 161 ff.

マイワルト (Manfred Maiwald)

〔刑一七・三・四、一八八、追Ⅱ2七一、追Ⅲ八五〕

一九七六年に、ゲッティンゲン大学教授となった。

編著

Wege zur Strafrechtsreform, 1976.

論文

Zur gerichtlichen Fürsorgepflicht im Strafprozeß und ihren Grenzen. Festschr. f. Lange, 1976, S. 745 ff.

マルクワルト (Helmut Marquardt)

〔追Ⅲ八六〕

共著

Jugendliche Straftäter und ihre Verfahren, 1975.

マルクス (Michael Marx)

〔追Ⅲ八六〕

論文

Marx- Jochen Schneider, Sicherheit der Information und Strafrecht. Strafrechtliche Aspekte der Datensicherung und der Computerkriminalität. Informationsrecht und Informationspolitik, 1976, S. 217 ff.

Marx- Miyazawa, Bedingte Entlassung “Lebenslänglicher” in Japan. MschrKrim. 59. Jg., 1976, S. 181 ff.

Systeme des 19. Jahrhunderts. Kaufmann-Hassemer, Einführung in die Rechtsphilosophie und Rechtstheorie, 1977, S. 89 ff.

Interessenjurisprudenz, ebenda, S. 97 ff.

マウラッハ (Reinhart Maurach)

〔刑一七・三・四、一八八、追Ⅱ2七一、追Ⅲ八六〕

一九七六年六月一一日に、旅行先のイタリアのガルドーネで心臓麻痺のため急死した。七四歳であった。追悼文として、Karl-Heinz Gössel, Reinhart Maurach zum Gedächtnis. GA 1976, S. 289 f.; Friedrich Christian Schroeder, Reinhart Maurach †. JZ 1976, S. 534 ; Heinz Zipf, Reinhart Maurach †. NJW 1976, S. 1732. が書せられた。

論文（追加）

Neuere kriminalpolitische Tendenzen im sowjetischen Strafrecht. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 239 ff.

ヘイヤー (Hellmuth Mayer)

一九七五年五月一日に、八〇歳の誕生日を祝い、Wolfgang Naucke, Hellmuth Mayer zum achtzigsten Geburtstag. JZ 1975, S. 261 f. が寄せられた。

論文

Zur historischen Kriminologie. Festschr. f. Lange, 1976, S. 597 ff.

メルガン (Armand Mergen)

〔刑一七・三・四、一四八、追Ⅱ2七三、追Ⅲ八七〕

著書（編著）

Die juristische Problematik in der Medizin, 3 Bde, 1971.

Verunsicherte Kriminologie, 1975.

論文

Kriminologische Probleme der Persönlichkeitsstruktur. Krim. 1975, S. 62 ff.

Moderne Erscheinungsformen im nationalen und internationalen Kriminalitatsbereich. Krim. 1976, S. 296 ff.

Strafrechtsreform, Schuld und soziale Wirklichkeit. Festschr. f. Lange, 1976, S. 627 ff.

Sexuality and Criminal Law in Terms of Anthropological and Social Conflict. Criminology between the Rule of Law and the Outlaws. Volume in Honour of Willem H. Nagel, 1976, p. 139 ff.

※ **ヨルガン・ヘイヤー** (Jürgen Meyer)

一九三六年三月二六日に、デュッセルドルフで生まれた。

テュービンゲン大学のペータースに提出した論文 Dialektik im Strafprozeß. Eine Untersuchung der Spannungen im Strafprozeß unter besonderer Berücksichtigung der dialektischen Gewinnung der Strafurteile in Kräftefeld der Schlußanträge, 1965 で学位を取得し、助手となった。しかし、その後、家庭的な問題によりペータースのもとから去り、フライブルクのマックス・プランク外国・国際刑法研究所の研究員となった。一九七六年、同大学の私講師となった。教授資格請求論文は Jescheck—Meyer, Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens im deutschen und ausländischen Recht, 1974. である。

論文

Präsente Zeugen und Sachverständige nur nach förmlicher Ladung? MDR 1962, S. 540 ff.

Tagung für Beamte des Strafvollzugs 23. bis 25. 1. 1967. JZ 1967, S. 227 f.

Tagung der Strafrechtslehrer in Münster. JZ 1967, S. 710 ff. (紹介、小暮得雄・能勢弘之・ジュリスト四〇四、一〇二頁以下、四〇五、六三頁以下、四〇六、一三四頁以下、昭和四三年)

Zum Begriff der Neuheit von Tatsachen oder Beweismitteln im Wiederaufnahmeverfahren. JZ 1968, S. 7 ff.

Bericht über das Kolloquium anläßlich der Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts für ausländisches und internationales Strafrecht am 16. März 1968 in Freiburg i. Br. ZStrW Bd. 80, 1968, S. 815 ff.

Tagung der Evangelischen Akademie Bad Boll. JZ 1969, S. 154 f.

Bericht über das Kolloquium „Die Untersuchngshaft im ausländischen und deutschen Recht" anläßlich der Sitzung des Kuratoriums des Max-Planck-Instituts für ausländisches und internationales Strafrecht am 6. März 1970 in Freiburg i. Br. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 1117 ff.

Die Wiederaufnahme des Strafverfahrens in rechtsvergleichender Darstellung. Jescheck—Meyer, op. cit., 1974, S. 729ff.

Anstiftung zum Unterlassen. MDR 1975, S. 286 ff.

Kritik an der Neuregelung der Versuchsstrafbarkeit. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 598 ff.

Diskussionsbericht. Koll. Str. Vgl. 1975, S. 93 ff.

Brauchen wir den Kronzeugen? ZRP 9. Jg., 1976, S. 25 ff.

ﾐｰﾋ (Olaf Miehe)

〔追Ⅱ2七四、追Ⅲ八七〕

論文

Die Schuldfähigkeit Jugendlicher im Strafrecht der deutschen Demokratischen Republik. Festschr. f. Schaffstein, 1975, S. 353 ff.

ﾓｰｽ (Reinhard Moos)

〔追Ⅲ八七〕

一九七六年に、リンツ大学教授に転任した。

論文

Hundert Jahre österreichische Strafprozeßordnung. Betrachtungen zu einer Festschrift. ÖRiZ 1975, S. 77 ff.

Die Parteistellung der Staatsanwaltschaft im österreichischen Strafverfahren. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 37 ff.

ﾐｭﾗｰﾃﾞｰﾆｯﾂｰﾝ (Heinz Müller-Dietz)

〔刑一七・三・四、一八二、追Ⅱ2七四、追Ⅲ八八〕

著書

Empirische Forschung und Strafvollzug, 1976.

Strafvollzugsrecht, 1976.

論文

Die Situation des Arztes in der Sowetunion. Universitätstage 1961. Marxismus — Lenismus. Geschichte und Gestalt, S. 143 ff.

Jugendhilferecht oder Jugendkriminalrecht? GA 1975, S. 193 ff.

Freedom of Conscience and Penal Law. Law and State, vol. 11, 1975, p. 7 ff.

Jugendgerichtsbarkeit und Sozialarbeit. MschrKrim. 1975, S. 1 ff. (auch in : Jugendgerichtsbarkeit und Sozialarbeit. Schriftenreihe der deutschen Vereinigung für Jugendgerichte und Jugendgerichtshilfen, 1975, S. 27 ff.)

Vollzugsziel und innerer Aufbau der Vollzugsanstalten. ZfStrVo Jg., 24, 1975, S. 204 ff.

Grundrechtsbeschränkung im Strafvollzug. BVerfG NJW 1976, 37. JuS 1976, S. 88 ff.

Vorschlag zur Pönalisierung verbaler Gewalt. JZ 1976, S. 141.

Absehen von Strafe (§ 60 StGB n. F.). Dogmatische und kriminalpolitische Probleme einer neueren Rechtsfigur. Festschr. f. Lange, 1976, S. 303 ff.

Strafvollzug - Resozialisierung oder Leerlauf? Eduard Naegeli (hrsgg.), Strafe und Verbrechen, 1976, S. 49 ff.

ナウケ (Wolfgang Naucke)

〔昭一七・二・四′一八一′昭二七六′昭二八九〕

著書

Strafrecht. Eine Einführung, 1975.

Tendenzen in der Strafrechtsentwicklung, 1975.

論文

Rückwirkende Senkung der Promille-Grenze und Rückwirkungsverbot (Art. 103 Abs. 2 GG). NJW 1968, S. 2321 ff.

Rechtsstaat und menschliche Wurde. ARSP vol. 56, 1970, S. 539 ff.

Paul Johann Anselm von Feuerbach. Zur 200. Wiederkehr seines Geburtstags am 14. November 1975. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 861 ff.

Der Kausalzusammenhang zwischen Täuschung und Irrtum beim Betrug. Zum Verhältnis zwischen Kriminalpolitik und Strafrechtsdogmatik. Lüderssen — Sack, Abweichendes Verhalten, II 1, 1976, S. 332 ff.

ノール (Peter Noll)

〔昭一七・二・四′一八一′昭二七六′昭二九〇〕

著書

Strafrecht I, Allgemeine Lehren, 1974.

エーラー (Dietrich Oehler)

〔刑一七・三・四′一七九′追二七七′追三九〇〕

著書

Die Grenze des Verbots der Werbung für Zigaretten im Rundfunk, 1975.

論文

Les problèmes actuels d'extradiction. RIDP vol. 39, 1968, p. 397 ff.

Der X. internationale Strafrechtskongreß in Rom vom 29. September bis 5. Oktober 1969. ZStrW Bd. 82, 1970, S. 571 ff.

Bericht über den vierten Kongreß der Vereinten Nationen über Verbrechensverhütung und Behandlung der Straffälliger, Kyoto/Japan, vom 17. bis 26. August 1970. ZStrW Bd. 83, 1971, S. 576 ff.

Grußwort. Festschr. f. R. Lange, 1976, S. XV ff.

オットー (Harro Otto)

〔刑一七・三・四′一七七′追二七八′追三九一〕

著書

Grundkurs Strafrecht. Allgemeine Strafrechtslehre, 1976.

論文

Grenzen der Fahrlässigkeit im Strafrecht. — OLG Hamm NJW 1973, 1422. JuS 1974, S. 702 ff.

Vorangegangenes Tun als Grundlage strafrechtlicher Haftung. NJW 1974, S. 528 ff.

Personales Unrecht, Schuld und Strafe. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 539 ff.

Straflose Teilnahme? Festschr. f. Lange, 1976, S. 197 ff.

ペーターズ (Karl Peters)

〔刑一七・三・四′一七七′追二七九′追三九一〕

著書

Der neue Strafprozeß, 1975.

論文（追加文献）

Freie Beweiswürdigung und Justizirrtum. Festschr. f. Karl Olivecrona, 1964, S. 532 ff.

Freiheit und Gebundenheit des Strafgefangenen. Zu dem auf S. 512 ff. abgedruckten Beschluß des Bundesverfassungsgerichts vom 14. 3. 1972. JR 1972, S. 489 ff.

Zur Entwicklung der deutschen kriminologischen Wissenschaft (Betrachtungen zu Hans Göppinger Kriminologie, 2. Aufl., 1973). JR 1974, S. 230 ff.

Seelsorge und Strafvollzug. JR 1975, S. 402 ff.

Eine Antwort auf Undeutsch: Die Verwertbarkeit unwillkürlicher Ausdruckserscheinungen bei der Aussagenwürdi-

gung. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 663 ff.

Bleibende Grundlagen im Wandel des Jugendrechts. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 381 ff.

Ergebnisse von Vorlagen nach Art. 100 Abs. 1 GG und einige Überlegungen dazu. ZZP Bd. 89, 1976, S. 1 ff.

Strafzumessung. Sieverts — Schneider. Hw. d. Krim. 2. Aufl., Erg. Bd. 1. Lief. 1977, S. 132 ff.

クヴェンセル (Stephan Quensel)

〔追Ⅲ九二〕

論文（追加を含む）

Quensel — Hohmaier, Therapie ohne Diagnose? Zur Kritik vom Dorothea und Helga Peters an der Konzeption der sozialtherapeutischen Anstalt. KrimJ. 3. Jg., Nr. 1. 1971, S. 40 ff.

Kritische Kriminologie. Zur Auseinandersetzung mit einem marxistischen Ansatz. Kritische Kriminologie, 1974, S. 132 ff.

Chromosomenaberration und Zwangspsychopathische Kleptomanie : Zur Problematik eines biologischen Ansatzes. Kritische Bemerkungen zu den Aufsätzen von Klein-Vogler/Haberlandt und von H. Dietrich. MschrKrim. 59. Jg., 1976, S. 223 ff.

Wie wird man ein gewöhnlicher Verbrecher. Ein sozialpsychologisches Modell der delinquenten Entwicklung. Eduard Naegeli (hrsgg.), Strafe und Verbrechen, 1976, S. 37 ff.

Einige sozialwissenschaftliche Probleme der juristischen Regelung sozialwissenschaftlicher Forschung. Eser-Schumann, Forschung im Konflikt mit Recht und Ethik, 1976, S. 200 ff.

ロリンスキー (Klaus Rolinski)

〔法学研究四七巻三号、追Ⅲ九四〕

一九三二年七月一一日に、オストプロイセンのクランツに生まれた。

マインツ大学の助手（メルゲンのもとで学位を取得し、後に、ハ、次いでくナクの助手となる）となり、代案教授陣の若手として活躍していたが、一九七五年に、レーゲンスブルク大学教授となつた。教授資格請求論文は、Die chronisch-rückfälligen Straftäter im neuen Maßregelrecht, Tätermerkmale als Einweisungsvoraussetzungen der sozialtherapeutischen Anstalt und Methoden zu ihrer Bestimmung（未公刊）である。

論文（追加を含む）

Zur Situation der unerwünschten Schwangerschaft. Baumann (hrsgg.), Das Abtreibungsverbot des § 218 StGB, 2. Aufl., 1972, S. 248 ff.

Zur Hypothese unterschiedlicher Auswirkung von Verstär-

kungsbedingungen bei Straffälligen und Nichtstraffälligen im Lernexperiment. Beitrag für den 30. Kongress der Deutschen Gesellschaft für Psychologie vom 19. – 24. Sept. 1970.

刑法対案各則（人に対する罪、一、二）のほか、Entwurf eines Gesetzes zum Schutz freier Meinungsbildung und Dokumentation des Arbeitskreises Pressefreiheit, 1970 の起草にも参加している。

ロクシン (Claus Roxin)

〔刑一七・三・四、一七三、追Ⅱ2八〇、追Ⅲ九五〕

編著

Einführung in die Grundprobleme des Strafrechts, hrsgg. v. Seiji Saito, 1976.

論文

Über den Notwehrexzeß. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 105 ff.

Richard Lange siebzig Jahre. JZ 1976, S. 252.

Bemerkungen zum „Täter hinter dem Täter". Festschr. f. Lange, 1976, S. 173 ff.

Recht und soziale Wirklichkeit im Strafverfahren. Göppinger – Kaiser, op. cit. Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 9 ff.

ルドルフィー (Hans-Joachim Rudolphi)

〔刑一七・三・四、一七一、追Ⅱ2八一、追Ⅲ九五〕

共著

Systematischer Kommentar StGB. Allg. Teil, Bd. 1, 1975. Besonderer Teil, 1976.

論文

Zur Abgrenzung zwischen Vorbereitung und Versuch.— OLG Celle, NJW 1972, 1823. JuS 1973, S. 20 ff.

Grenzen der Überwachung des Fernmeldeverkehrs nach den § 100 a, b StPO. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 433 ff.

Strafprozeß im Umbruch. ZRP 9. Jg., 1976, S. 165 ff.

※ **リューピング** (Hinrich Rüping)

一九四二年二月九日に、ビーレフェルトで生まれた。ボン大学のウェルツェル教授に提出した論文 Die Naturrechtslehre des Christian Thomasius und ihre Fortbildung in der Thomasius-Schule, 1968 により学位を取得し、後に、同門のシュライバー教授に師事し、ゲッティンゲン大学において助手を勤めていたが、同教授に提出した論文 Der Grundsatz des rechtlichen Gehörs und seine Bedeutung im Strafverfahren, 1976 により、一九七四年に、ゲッティンゲン大学私講師となり、一九七五年に、ボン大学教授に就任した。

著書

Theorie und Praxis des Strafverfahrens, 1977.

論文

Gottlieb Gerhard Titius und die Naturrechtslehre in Deutschland um die Wende vom 17. und 18. Jahrhundert. Savigny-ZSchr. Germ. Bd. 87, 1970, S. 314 ff.

Geldstrafe und Buße. Zur Entwicklung der öffentlichen Strafe. ZStrW Bd. 85, 1973, S. 672 ff.

Zur Mitwirkungspflicht des Beschuldigten und Angeklagten. JR 1974, S. 135 ff.

Rechtliches Gehör und Prozeßökonomie. Information über Steuer und Wirtschaft. 1974, S. 133 ff.

Teilnahme durch Unterlassen. Revue de droit international 1974, p. 126 ff.

Der Schutz der Gerichtsverhandlung — „Ungebühr" oder „betriebliche Ordnungsgewalt"? ZZP Bd. 88, 1975, S. 212 ff.

Die Gnade im Rechtsstaat. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 31 ff.

Funktionen der Laienrichter im Strafverfahren. JR 1976, S. 269 ff.

Sterbehilfe und „gelenkte Sterblichkeit". Deutsche Med. Wochenschr. Bd. 101, 1976, S. 1332 ff.

Rüping - Kamp, Der praktische Fall - Strafrecht. Jugendliche im Bus. JuS 1976, S. 660 ff.

※ ザック (Fritz Sack)

一九三一年二月二六日に、ポンメルンのノイマルクに生まれた。一九五一年から五四年まで、シュレスウィヒ・ホルシュタインの州税務局に勤め、一九五四年から七〇年まで、キール大学、オクイオ州立大学、カリフォルニア大学、ケルン大学において経済学と社会学を学び、その間、一九六三年に論文 Integration und Anpassung des Handwerks in der industriellen Gesellschaft, 1966で学位を取得した。一九五八年から六三年まで、ケルン大学のルネ・ケーニッヒ教授の主宰する社会学研究所の助手をつとめていたが、一九七〇年二月に、教授資格を取得した。論文は、Strukturen und Prozesse in einem Delinquenzviertel Kölns. Ein Beitrag zur Kriminalsoziologie, 1974であった。一九七〇年にレーゲンスブルク大学教授となり、一九七四年には、くノーベー工科大学法学部教授となり、今日に至っている。

著書（共編著）

König - Sack, Kriminalsoziologie, 1968.

Sack - Kjolseth, Zur Soziologie der Sprache, 1971.

Sack - Albrecht - Daheim, Soziologie, Sprache - Bezug zur Praxis—Verhältnis zu anderen Wissenschaften. René König zum 65. Geburtstag, 1973.

Kaiser - Schellhoss - Sack, Kleines Kriminologisches Wörterbuch, 1974.

Lüderssen - Sack, Seminar : Abweichendes Verhalten I ;

Die selektiven Normen der Gesellschaft, 1974.

do.; II 1; Die gesellschaftliche Reaktion auf Kriminalität, 1975.

論文

Das Experiment als Verhaltensprinzip im Leben avantgardistischer Gruppen. Theater und Zeit, 8. Jg., 1961, S. 145 ff.

Mißverständnis um die Soziologie des Theaters. Theater und Zeit, 9. Jg., 1961, S. 241 ff.

Zum Stand der Kriminologie—Dargestellt an zwei Publikationen. KZfSS 18. Jg., 1966, S. 355 ff.

Abweichendes Verhalten. W. Berndsdorf (hrsgg.), Handwörterbuch der Soziologie, 2. Aufl., 1968, S. 2 ff.

Die West-Ost-Wanderung der Kriminalität. H. Schäfer, Kriminalistische Akzente, Bd. 4 der Grundlagen der Kriminalstatistik, 1968, S. 245 ff.

Neue Perspektiven in der Kriminologie. Konig - Sack, op. cit., S. 430 ff.

Die fortschreitende Auflösung der Familie aus soziologischer Sicht. Bericht über die Arbeitstagung der Bundeskonferenz für Erziehungsberatung e. V. vom 8. bis 10. Mai 1968 in Dusseldorff.

Die Familie in der modernen Gesellschaft. Klausenhof-Beiträge zur ausländischen Jugend- und Erwachsenenbildung, H. 2, 1969.

Sack - Albrecht, Die Polizei als gesellschaftliche Kontrollinstanz der Kriminalität. KrimJ Nr. 1, 1969, S. 24 ff.

Probleme der Kriminalsoziologie. König (Hrsg.), Hb. d. empirischen Sozialforschung, 2. Bd., 1969, S. 961 ff.

Soziologische Aspekte von Haft- und Verfolgungsschäden. H. J. Herberg (Hrsg.), Spätschäden nach Estrembelastungen, 1971, S. 221 ff.

Neuere Ergebnisse der kriminologischen Forschung aus den USA. Krim. Geg. Fr. Heft 9, 1971, S. 44 ff.

Die verhinderte Öffentlichkeit und ihre Funktionen. Hans Lauter u. Joachim-Ernst Meyer (Hrsg.), Der psychisch Kranke und die Gesellschaft, 1971, S. 55 ff.

Selektion und Kriminalität. Krit. J. Jg. 4, 1974, S. 384 ff.

Die Idee der Subkultur: Eine Beziehung zwischen Anthropologie und Soziologie. KZfSS Bd. 23, 1971, S. 261 ff.

Abweichendes Verhalten. Die moderne Gesellschaft, 1972, S. 315 ff.

Definition von Kriminalität als politisches Handeln. KrimJ. 1972, S. 3 ff.

Abweichendes Verhalten aus soziologischer Sicht. —Folgen für die Sozialarbeit. H.-U. Otto - S. Schneider (Hrsg.), Gesellschaftliche Perspektiven der Sozialarbeit, I/II, 1973.

Stadtgeschichte und Kriminalsoziologie. Eine historisch-soziologische Analyse asozialen Verhaltens. Sonderheft 16 KZfSS, 1972 (auch : Lüderssen - Sack, op. cit., I, 1974, S. 37 ff., 291 ff.)

Jugend und Gewalt. F. Neidhardt (Hrsg.), Aggression in unserer Gesellschaft, 1973, S. 39 ff.

Einige Fragen und Probleme der Rechtsanwendung—aus soziologischer Sicht. Albrecht-Daheim-Sack (Hrsg.), Soziologie, Sprache, op. cit., 1973, S. 400 ff.

Selektion und Klassenjustiz. Vorgänge 1, 1973, S. 55 ff.

Schicht u. Klasse, Band, Gangs, Dunkelfeld, Familie, Kulturkonflikte, Kultur, Subkultur, Makro- u. Mikrobereich, Minderheiten u. Vorurteile, Recht u. soziale Kontrolle, Sachverständiger, Selektion, Selektionsmechanismen. Kaiser-Schellhoss-Sack, op. cit., 1974.

Theoretische Vorbemerkungen und organisatorische Bedingungen zum interdisziplinären Forschungsprojekt im Landeskrankenhaus Düsseldorff - Grafenberg. KZfSS 1973, S. 231 ff.

Kriminalität als gesellschaftliche Legitimierungsproblematik — Kriminologie als Legitimationswissenschaft. Recht u. Politik, 1975, S. 19 ff.

Die Chancen der Kooperation zwischen Strafrechtswissenschaft und Kriminologie — Probleme und offene Fragen. Lüderssen — Sack, op. cit., II 1, S. 346 ff.

Sack—E. Weingarten, Ethnomethodologie. Die methodische Konstruktion der Realität. Weingarten-Sack-Schenkein(Hrsg.), Ethnomethodologie. Beiträge zu einer Soziologie des Alltagshandelns. 1976, S. 7 ff.

サムソン (Erich Samson)

〔昭二〇・一一・一　昭五六〕

著書（共著）

Strafrecht I, 1974.

Strafrecht II, 1976.

Systematischer Kommentar StGB. Bd. 1, Allg. Teil, 1975, Bd. 2, Besonderer Teil, 1976.

ザルステット (Werner Sarstedt)

〔昭一七・一一・四　一九一　昭二〇・一一　昭五六〕

論文

Paulheinz Baldus †. JR 1976, S. 287.

ザクス (Walter Sax)

〔昭一七・一一・四　一九〇　昭二〇・一一　昭五六〕

論文

„Tatbestand“ und Rechtsgutsverletzung. Überlegungen zur

Neubestimmung von Gehalt und Funktion des „gesetzlichen Tatbestandes" und des „Unrechtstatbestandes" I, II. JZ 1976, S. 9 ff., 80 ff., 429 ff.

フリードリヒ・シャフシュタイン (Friedrich Schaffstein)

〔刑一七・三・四、一六八、追Ⅱ2八三、追Ⅲ九六〕

著書

Jugendstrafrecht. Eine systematische Darstellung. 5. Aufl., 1975.

論文

Jugendkriminologische Bemerkungen zur Verurteilungsstatistik 1972. MschrKrim. 57. Jg., 1974, S. 325 ff.

Die strafrechtliche Verantwortlichkeit Heranwachsender nach Herabsetzung des Volljährigkeitsalters. MschrKrim. 59. Jg., 1976, S. 92 ff.

Vom crimen vis zur Nötigung. Eine Studie zur Tatbestandsbildung im Gemeinen Strafrecht. Festschr. f. Lange, 1976, S. 983 ff.

※ ゲオルク・シリング (Georg Schilling)

一九三六年四月一一日に、オーバーラウジッツのワイスワッサーで生まれた。ボン大学のアルミン・カウフマンに提出した論文 Der strafrechtliche Schutz des Augenscheinsbeweises, 1965 により学位を取得し、後、助手として勤務し、一九七五年に私講師となった。教授資格請求論文は、Der Verbrechensversuch des Mittäters und des mittelbaren Täters, 1975 である。一九七六年には、インスブルク大学教授となった。

著書

Fälschung technischer Aufzeichnungne, 1970.

Reform der Urkundenverbrechen, 1971.

論文

Zur Anwendung des § 298 StGB bei der Aufzeichnung von Telefongesprächen. NJW 1972, S. 854.

Strafprozessuales Zeugnisverweigerungsrecht für Sozialarbeiter, Sozialpädagogen und Psychologen? JZ 1976, S. 617 ff.

ヴェルナー・シュミット (Werner Schmid)

〔刑一七・三・四、一六六、追Ⅱ2八三、追Ⅲ九七〕

論文

Über den Aktenverlust im Strafprozeß. Festschr. f. Lange, 1976, S. 781 ff.

エベルハード・シュミットホイザー (Eberhard Schmidhäuser)

〔刑一七・三・四、一六五、追Ⅱ2八四、追Ⅲ九七〕

論文

Unrechtsbewußtsein und Schuldgrundsatz. NJW 1975, S.

1807 ff.

Fahrlässige Straftat ohne Sorgfaltspflichtverletzung. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 129 ff.

エバハルト・シュミット (Eberhard Schmidt)
〔刑一七・三・四、一六五、追Ⅱ2八四、追Ⅲ九七〕
論文（追加）

Straftaten und Ordnungswidrigkeiten. Erinnerungen an die Arbeiten der Wirtschaftskommission (1947-1949). Festschr. f. Adolf Arndt, 1969, S. 415 ff.

ゲルハルト・シュミット (Gerhard Schmidt)
〔追Ⅱ2八五〕
論文

Großverfahren und Strafprozeßrecht. JR 1974, S. 320 ff.

ルドルフ・シュミット (Rudolf Schmitt)
〔刑一七・三・四、一六一、追Ⅱ2八六、追Ⅲ九八〕
論文

Nochmals: Was wird aus unseren Jurastudenten? JZ 1975, S. 730 f.

Von der Aufgabe, Gesetze zu machen. Ein Beitrag zur Geschichte der Reform unseres Abtreibungsstrafrechts. Zf Familienrecht. 23. Jg., 1976, S. 595 f.

Wie weit reicht § 30 des Ordnungswidrigkeitengesetzes? Festschr. f. Lange, 1976, S. 877 ff.

ハンス・ヨアヒム・シュナイダー (Hans Joachim Schneider)
〔追Ⅱ2八七、追Ⅲ九九〕
著書

Kriminologie Jugendstrafrecht Strafvollzug, 1976.

論文

Schneider, Jubelius et. al., Darstellung der Kriminalität im Fernsehen und ihre Beziehung zur Einstellung der Rezipienten. KrimJ. 6. Jg., 1974, S. 125 ff.

In memoriam Hermann Mannheim. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 1039 ff.

Kriminologie(Grundlagen)—Ergänzung. Sieverts-Schneider, Hw. d. Krim. 2. Aufl., 2. Bd. 1977, S. 515 ff.

Miyazawa-Schneider, Vergleichende Kriminologie: Japan. Sieverts-Schneider, Hw. d. Krim. 2. Aufl., Erg. Bd., 1. Lief., 1977, S. 1 ff.

ハインツ (Heinz Schöch)
〔追Ⅲ九九〕
論文

Grundlage und Wirkungen der Strafe. Zum Realitätsgehalt des § 46 Abs. 1 StGB. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 255 ff.

Ist Kriminalität normal? Probleme und Ergebnisse der Dunkelfeldforschung. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. Heft 12, 1976, S. 211 ff.

※ ﾊｰﾈﾎﾞﾙﾝ (Christian Schöneborn)

一九四〇年九月一五日に、ケルンで生まれた。フランクフルト大学のウィルヘルム・クラスに提出した論文 Die berichtigende Auslegung des § 246 StGB. Diss. Frankfurt, 1968 により学位を取得し、後、その助手を勤めていたが、一九七五年、同大学私講師となつた。教授資格請求論文は、まだ、公刊されていない。

論文

Verwertungsverbot bei nichtärztlicher Blutentnahme? MDR 1971, S. 713 ff.

Alternativität der Handlungsvorgänge als Kriterium des strafprozessualen Tatbegriffs. MDR 1974, S. 529 ff.

Zeugnisverweigerungsrecht bei mehreren Mitbeschuldigten und Rechtskreistheorie. NJW 1974. S. 535 ff.

Zum Problem der materiellrechtlichen und prozessualen Tateinheit durch „Verklammerung". NJW 1974, S. 734 f.

Das Problem der Rollenvertauschung und des Zeugnisverweigerungsrechts bei mehereren Mitbeschuldigten in vergleichender Betrachtung. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 921 ff.

Die strafprozessuale Beweisverwertungsproblematik aus revisionsrechtlicher Sicht. GA 1975, S. 33 ff.

Die regulative Funktion des Schuldprinzips bei der Strafzumessung. GA 1975, S. 272 ff.

Die Behandlung der Verfahrenshindernisse im strafprozessualen Verfahrensgang. MDR 1975, S. 6 ff.

Verfassungsrechtliche Aspekte des strafprozessualen Wiederaufnahmeverfahrens. MDR 1975, S. 441 ff.

Kombiniertes Teilnahme- und Einheitstätersystem für das Strafrecht. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 902 ff.

Schuldprinzip und generalpräventiver Aspekt. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 349 ff.

ﾊﾝﾗｲﾊﾞｰ (Hans-Ludwig Schreiber)

〔昭Ⅲ一〇〇〕

著書（共著）

Gesetz und Richter : Zur geschichtlichen Entwicklung des Satzes „nullum crimen, nulla poena sine lage", 1975. (教授資格請求論文)

Systematischer Kommentar StGB. Bd. 1, Allg. Teil, 1975; Bd. 2, Besonderer Teil, 1976.

論文

Besondere Umstände in der Tat und in der Persönlichkeit des Verurteilten. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 275 ff.

Euthanasie. Beiträge zur Gerichtlichen Medizin, 1975, S. 275 ff.

Verfassungsrecht und Verfahrenswirklichkeit. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 117 ff.

Abschied vom Begriff des ärztlichen Kunstfehlers? Der medizinische Sachverständige, 72. Jg., 1976. Heft 4, S. 71 ff.

Das Bild des Juristen in den Diskussionen um die Reform der Juristenausbildung.

ホルスト・シュレーダー (Friedrich Christian Schroeder)

〔刑一七・三・四、一六〇、追II2九一、追III一〇一〕

著書（共著）

Schroeder-Kaufmann, Sport und Recht, 1972.

Texte zur Theorie des politischen Strafrechts, 1974.

Das neue Sexualstrafrecht, 1975.

論文（追加を含む）

Schuld als Entwicklung—Zur neuerenSchulddiskussion in der DDR. Jb. f. OR. 1973, S. 9 ff.

Schlußwort. JZ 1976, S. 238 f.

Reinhart Maurach†. JZ 1976, S. 534.

Die Entwicklung der Sexualdelikte nach dem 4. StrRG. Zugleich zur Theorie der Kriminalstatistik. MschrKrim. 59. Jg., 1976, S. 108 ff.

Die Kriminalisierung der Fluchthilfe ist unzulässig. ZRP 9. Jg., 1976, S. 32 ff.

Das „Erzieherprivileg" im Strafrecht. Festschr. f. Lange, 1976, S. 391 ff.

ホルスト・シュレーダー (Horst Schröder)

〔刑一七・三・四、一五九、追II2九三、追III一〇一〕

論文（追加）

Notwehr bei schuldhaften Vorverhalten—BGH NJW 1972, 1821. JuS 1973, S. 157 ff.

ホルスト・シュレー＝ホルスト・シュプリンゴルム (Horst Schüler-Springorum)

〔刑一七・三・四、一五六、追II2九四、追III一〇二〕

一九七五年冬学期に、ミュンヘン大学教授になった。

編著

Schüler- Springorum—Krokowski, Jugendkriminalität und Resozialisierung, 1975.

論文（追加を含む）

Die Jugendkriminalrechtspflege im Lichte der kriminologischen Forschung. Die Jugendkriminalrechtspflege im Lichte der kriminologischen Forschung—Erfahrungen, Erkenntnisse,

Konsequenzen, 1969, S. 21 ff.

A Critical Comparison of the British Detention Centeres and the German „Jugendarrest" System. IJCP 1975, Bd. 3, p. 201 ff.

Jugendstrafrecht im Umbruch. Jung, Fälle zum Wahlfach Kriminologie, Jugendstrafrecht, Strafvollzug, 1975, S. 162 ff.

Zum Strafrecht für junge Erwachsene. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 395 ff.

ベルネマン (Bernd Schünemann)

ボン大学の研究参与兼教授であつたが、一九七五年に、マンハイム大学正教授に就任した。

論文

Moderne Tendenzen in der Dogmatik der Fahrlässigkeits- und Gefährdungsdelikte. JA 1975, S. 113 ff., 131 ff., 149 ff., 167 ff., 185 ff., 203 ff.

Neue Horizonte der Fahrlässigkeitsdogmatik? Zur Stellung der individuellen Sorgfaltswidrigkeit und des Handlungserfolges im Verbrechensaufbau. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 159 ff.

※ シュヴィント (Hans-Dieter Schwind)

一九三六年五月三一日に、東京で生まれた。その父親は、一九三三年から三九年にかけて、大森にあるドイツ学園長であつたマルティン・シュヴィント教授である。

ハンブルク大学のジーベーン教授に提出した論文 Umfang und Träger der Wehrgerichtsbarkeit—Historische, rechtsvergleichende und rechtstatsächliche Untersuchungen, 1966で学位を取得した。その後、シューラー＝シュプリンゴルムに師事し、ゲッティンゲンに移り、そのもとに提出した論文 Oligophrenie und Delinquenz—Untersuchungen zur Kriminologie des Schwachsinns und zur Frage seiner Berücksichtigung im Strafprozeß (未公刊) により、教授資格を取得し、一九七四年夏学期に、ボッフム大学教授に就任した。

著書

The Military Judicial Organisations of the CIORNATO-States, 1964.

Kurze Geschichte der deutschen Kriegsgerichte, 1966.

Schwind - Jany - Wohlgemuth, Eine Meinungsumfrage in Bochum zu Problemen des Strafvollzuges, 1975.

Schwind - Hassenpfleg - Nawratil - Kollenberg, Strafrecht leicht gemacht. Eine Einführung zum Allgemeinen und Besonderen Teil des Strafgesetzbuches mit praktischen Hinweisen für Klausur, Aufbau und Studium, 1975.

Schwind et al., Dunkelfeldforschung in Göttingen 1973/74, 1975.

Schwind-Blau, Strafvollzug in der Praxis. Eine Einführung in die Probleme und Realitäten des Strafvollzuges und der Entlassenenhilfe, 1976.

論文

Die Regelung der Wehrgerichtsbarkeit in der Bundesrepublik Deutschland. ZSchr. Wehrkunde, Sept. Heft 1966.

Rechtsvergleichende Untersuchungen zur Wehrgerichtsbarkeit, ebenda Oktober Heft.

Reformvorschläge zur deutschen Wehrgerichtsbarkeit, op. cit., 1967, Januar Heft.

Die Militärgerichtsbarkeit im Zweiten Weltkrieg. Neue ZSchr. f. Wehrrecht 1968, Heft 2, S. 68 ff.

Über die Kriegsgerichtsbarkeit vor, in und nach dem Ersten Weltkrieg. ZSchr. f. Wehrrecht 1968, S. 167 ff.

Grundfälle der „Kettenteilnahme". MDR 1969, S. 13 ff.

Der unbedeutende Wert als Grenze der Verbrauchsmittelentwendung. Der deutsche Rechtspfleger 1970, S. 126 ff.

„Ungebührliches" Verhalten vor Gericht und Ordnungsstrafe. JR 1973, S. 133 ff.

Schwind - Eger, Untersuchungen zur Dunkelziffer. Nichtentdeckte Straftaten von Gottinger Jura-Studenten. Mschr Krim. 56. Jg., 1973, S. 151 ff.

Zum Stand des „gesicherten Wissens" in der kriminologischen Forschung. JR 1974, S. 12 ff.

Zwischenbericht zur Dunkelfeldforschung in Göttingen. Krim. 28. Jg., 1974, S. 241 ff.

Schwind - Jany - Simon - Wohlgemuth, Kriminalgeographie, Kriminalitätsatlas Bochum : Beschreibung eines geplanten kriminalgeographischen Forschungsprojekts. Krim. 29. Jg., 1975, S. 241 ff.

Kriminalgeographie und Prävention, in : Polizei und Prävention. Vortragsreihe des BKA, Bd. 22, 1975.

Kriminalität und Schwachsinn. Hw. d. Krim. Bd. 3, 1975, S. 445 ff.

Schwind - Jany - Wohlgemuth, Eine Meinungsumfrage in Bochum, interessante Einstellungen zur Gefangenenarbeit. ZfStnVo 25. Jg., 1976, S. 103 ff.

Kurzer Bericht über Ziele, Methoden und Resultate der Dunkelfeldforschung in Göttingen 1973/74. Göppinger-Kaiser, op. cit., Krim. Geg. Fr. H. 12, 1976, S. 229 ff.

Kurzer Überblick über die Geschichte des Strafvollzuges. Schwind-Blau, op. cit., S. 1 ff.

Über die Einstellung der Bevölkerung zu Problemen des Strafvollzuges, ebenda, S. 429 ff.

ｴﾘﾋｼｭﾍﾞﾝｹﾞ (Erich Schwinge)

〔刑一七・三・四′一五四′追Ⅱ2九六′追Ⅲ一〇三〕

論文

Richter und Strafverteidiger in den USA. DRiZ 54. Jg., 1976, S. 300 ff.

ｷﾞｭﾝﾀｰｼﾍﾟﾝﾃﾞﾙ (Günter Spendel)

〔刑一七・三・四′一四九′追Ⅱ2九七′追Ⅲ一〇三〕

論文

Fahrlässige Teilnahme an Selbst- und Fremdtötung. JuS 1974, S. 749 ff.

Der „Täter hinter dem Täter" — eine notwendige Rechtsfigur? Zur Lehre von der mittelbaren Täterschaft. Festschr. f. Lange, 1976, S. 147 ff.

ｷﾞｭﾝﾀｰｼｭﾄﾗｰﾃﾝﾍﾞﾙﾄ (Günter Stratenwerth)

〔刑一七・三・四′一四七′追Ⅱ2九八′追Ⅲ一〇四〕

著書

Strafrecht. Allg. T. I. 2. Aufl., 1977.

論文

Zur Relevanz des Erfolgsunwerts im Strafrecht. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 177 ff.

Die Stufen des verbrechensaufbaus. Lüderssen - Sack, Abweichendes verhalten, II. 1, 1976, S. 251 ff.

ｳｫﾙﾀｰ ｼｭﾚｰ (Walter Stree)

〔刑一七・三・四′一四六′追Ⅱ2九八′追Ⅲ一〇四〕

共著

Roxin—Stree — Zipf—Jung, Einführung in das neue Strafrecht, 2. Aufl., 1975.

Schönke-Schröder, StGB. 18. Aufl., 1976.

論文

Begünstigung, Strafvereitelung und Hehlerei. Betrachtungen zu der Neuregelung. JuS 1976, S. 137 ff.

Strafrechtsschutz im Vorfeld von Gewalttaten. NJW 1976, S. 1177 ff.

※ ﾄｰｽ (Peter Thoss)

一九三七年二月一五日に′ドレスデンで生まれた。一九六八年に公刊された論文 Das subjektive Recht in der gliedschaftlichen Bindung. Zum Verhältnis von Nationalsozialismus und Privatrecht, 1968をフランクフルト大学のくンス・ペーターに提出し′学位を取得し′その後′ギーセン大学のくルベート・イェーガー教授の助手を勤めていたが′ブレーメン大学の招聘を受けて′同大学の教授となつた。教授資格請求論文は書いていない。

著書（共著）

Herbert Jäger–Peter Thoss, Kleingruppenarbeit im Strafrecht — Bericht über den Kursus Strafrecht Allgemeiner Teil im Sommersemester 1971 in Gießen. Hochschuldidaktische Materialien Nr. 30, 1971.

Peter Thoss — Rüdiger Lautmann — Johannes Feest, Einstufige Juristenausbildung im Bereich strafrechtlicher Sozialkontrolle. Bremer Erfahrungen und Perspektiven seit 1972. Hochschuldidaktische Materialien Nr. 56, 1976.

論文

Zum Verhältnis von Kern und Grenzen der Reform besonders der Vermögensdelikte. Carl Nedelmann (hrsgg.), Kritik der Strafrechtsreform, 1968, S. 66 ff.

Jäger — Thoss, Bericht über den Kursus Strafrecht Allgemeiner Teil im Sommersemester 1970 in Gießen. studentische politik 1970 Heft 5/6 S. 61 ff.

Kriminalpolitische Juristenausbildung. Alfred Rinken u. a. (hrsg.), Der neue Jurist, Ausbildungsreform in Bremen als Plannugs- und Lernprozeß, 1973, S. 10 ff.

Wirtschaftskriminalität und Juristenausbildung. ZRP 7. Jg., 1974, S. 238 ff.

Lautmann — Thoss, Gewalt in der Gesellschaft und strafbare Gewalt. KrimJ 1976, S. 120 ff.

ティーデマン (Klaus Tiedemann)

〔昭一七・三・四′一四五′遺二九九′遺一〇四〕

著書

Wirtschaftsstrafrecht und Wirtschaftskriminalität. Allg. u. Bes. Teil, 1976.

Wettbewerb und Strafrecht, 1976.

論文

Der Versuch der Zweckentfremdung im Steuerstrafrecht. JR 1973, S. 412 ff.

Internationale Zusammenarbeit auf dem Gebiet des Wirtschaftsstrafrechts. JR 1974, S. 93 f.

La criminalité socio-économique : Aspects internationaux et de droit comparé. RSCDPC 1974, P. 749 ff.

Internationale und vergleichende Aspekte der Wirtschaftskriminalität. Aktuelle Beitrage zur Wirtschaftskriminalität, 1974. S. 109 ff.

Der Subventionsbetrug. ZStrW Bd. 86, 1974, S. 897 ff.

Der Wechsel von Strafnormen und die Rechtsprechung des Bundesgerichtshofes. JZ 1975, S. 692 ff.

Objektive Strafbarkeitsbedingungen und die Reform des deutschen Konkursstrafrechts. ZRP 8. Jg., 1975, S. 129 ff.

Straftatbestand und Normambilanz am Beispiel der Geschäfts erichtsfälschung. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975,

S. 197 ff.

Der Entwurf eines Ersten Gesetzes zur Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. ZStrW Bd. 87, 1975, S. 253 ff.

Erscheinungsformen der Wirtschaftskriminalität und Möglichkeiten ihrer strafrechtlichen Bekämpfung. ZStrW Bd. 88, 1976, S. 231 ff.

Ziele und Probleme wirtschaftskriminologischer Forschung. Festschr. f. Lange, 1976, S. 541 ff.

※ トゥリフテラー (Otto Triffterer)

一九三一年二月一一日に、オーベーくウゼンのオスターフェルトに生まれた。

フライブルクのマックスプランク国際刑法・外国刑法研究所の助手を勤めていたが、一九七五年に、ギーセン大学教授となつた。現在、副学長であるという。

学位論文は、イェッシェックに提出した Dogmatische Urtersuchungen zur Entwicklung des materiellen Völkerstrafrechts seit Nürnberg, 1966. である。

著書

Jurisdiction over States for the Crimes of State, in : Treatise on International Criminal Law, vol. Ⅱ, Jurisdiction and Cooperation compiled and edited by M. C. Bassiouni and V. P. Nanda, 1973.

Menschenrechte in den Streitkräften. Landesberichte der Bundesrepublik Deutschland für den Ⅶ. Kongreß der Internationalen Gesellschaft für Wehrrecht und Kriegsvölkerrecht in San Remo, September 1976.

Menschenrechte in den Streitkräften – Das Recht auf Meinungsfreiheit für den Ⅶ. Kongreß der Internationalen Gesellschaft für Wehrrecht und Kriegsvölkerrecht in San Remo September 1976.

論文

Menschenrechte. Entwicklungspolitik. Handbuch und Lexikon, 1966, Sp. 1375 ff.

Rechtspflege, ebenda, Sp. 1494 ff.

Strafrecht, ebenda, Sp. 1575 ff.

Abgrenzungsprobleme beim Betrug durch Schweigen. — OLG Hamburg, NJW 1969, 325. JuS 1971, S. 181 ff.

Zur Behandlung „Lebenslänglicher" in der BRD. Untersuchungen über ihre vorzeitige Entlassung. ZRP Jg. 3, 1970, S. 13 ff., 38 ff.

Resozialisierung. Staatslexikon. Ergänzungsband Ⅲ, 1970, Sp. 85 ff.

Erscheinungsformen und Methoden zur Bekämpfung der Wirtschaftskriminalität. JZ 1971, S. 68 ff.

Zum Schuldbegriff im geltenden und kommenden Strafrecht.

RuG 1971, S. 9 ff.

Neuartige Freiburger „Einführung in die strafrechtliche Praxis". ZRP 1971, S. 46.

Die Bemühungen der Vereinten Nationen zur Regelung der Untersuchungshaft — Möglichkeiten und Grenzen völkerrechtlicher Durchsetzung von Mindestgarantien. Jescheck — Krümpelmann, Die Untersuchungshaft im deutschen, ausländischen und internationalen Recht, 1971, S. 885 ff.

Analyse des kontinental-europäischen Strafverfahrens. RuG 1974, S. 165 ff.

Triffterer-Rehbinder, Der Einfluß des wissenschaftlichen und technischen Fortschritts auf die Entwicklung des Rechts. ZSchr. f. vergleichende Rechtswissenschaft einschließlich der ethnologischen Rechtsforschung 1974, S. 89 ff.

Triffterer-Bietz, Strafaussetzung für „Lebenslängliche"? Zum Gesetzentwurf für eine Aussetzung des Strafrechts bei lebenslanger Freiheitsstrafe nach 12 bzw. 15 Jahren. ZRP 7. Jg., 1974, S. 141 ff.

Vermögensdelikte im Bundesligaskandal. NJW 1975, S. 612 ff.

Vermögensdelikte im Bundesligaskandal. Koll. Str. Vgl., 1975, S. 65 ff.

Laudatio auf „Amnesty International", vertreten durch Peter Benenson (anläßlich der Verleihung der Beccaria-Medaille 1974). Kriminologische Aktualität IX, 1975, S. 9 ff.

Die lebenslange Freiheitsstrafe — ein Fall für das BVerfG. ZRP 9. Jg., 1976. S. 91 f.

Das „Folterverbot im nationalen und internationalen Recht" — Anspruch und Wirklichkeit. Folter - Stellungnahme, Analyse, Vorschläge zur Abschaffung, 1976, S. 125 ff.

Zur Einschränkbarkeit der Menschenrechte und zur Anwendbarkeit strafprozessualer Verfahrensgarantien bei freiheitsentziehenden Disziplinarmaßnahmen in „besonderen Gewaltverhältnissen" I. II. Europäische Grundrechte, 1976, S. 363 ff., 1977.

Aufgaben, Systematik und Bedeutung des Strafgesetzbuches und des Gesetzes über die Ordnungswidrigkeiten. Einführung in : Das Deutsche Bundesrecht. Textausgabe Strafrecht und OWiG, 3. Aufl., 1977, S. IX ff.

Aufgaben, Systematik und Bedeutung der Strafprozeßordnung, des Jugendgerichtsgesetzes und der Richtlinien für das Strafverfahren und das Bußgeldverfahren. Einführung in : Das Deutsche Bundesrecht. Textausgabe Strafprozeßordnung und Jugendgerichtsgesetz, 2. Aufl., 1977, S. IX ff.

※ クラウス・ウルゼンハイマー (Klaus Ulsenheimer)

ボン大学のカミルシュミルに提出した論文 Das Verhältnis zwischen Pflichtwidrigkeit und Erfolg bei den Fahrlässigkeitsdelikten, 1965により学位を取得し、後、助手を勤め、一九七五年頃、教授資格請求論文を提出し、ボッフム大学私講師となった。論文は、Grundfragen des Rücktritts vom Versuch in Theorie und Praxis, 1976 である。同門のガイレンに師事したのであろう。現在は、ミュンヘンで弁護士をし、同大学の時間講師である。

論文

Zur Problematik des Versuchs erfolgsqualifizierter Delikte. GA 1966, S. 257 ff.

Das Personensorgerecht der Eltern im Widerstreit mit dem Gewissen und dem Strafgesetzbuch. FamRZ 1968, S. 568 ff.

Erfolgsrelevante und erfolgsneutrale Pflichtverletzungen im Rahmen der Fahrlässigkeit. JZ 1969, S. 364 ff.

Strafbarkeit des Garanten bei Nichtvornahme der einzig möglichen, aber riskanten Rettungshandlung BGH bei Dallinger MDR 1971, 361. JuS 1972, S. 252 ff.

Wartepflicht auf die Polizei nach Verkehrsunfällen — OLG Oldenburg NJW 1968, 2019. JuS 1971, S. 24 ff.

Zumutbarkeit normgemäßen Verhaltens bei Gefahr eigener Strafverfolgung. GA 1972, S. 1. ff.

Zur Regelung des Verteidigerausschlußes in §§ 138 a～d, 146 n. F. StPO. GA 1975, S. 103 ff.

Zur Strafbarkeit des Mißbrauchs von Insider-Informationen. NJW 1975, S. 1999 ff.

テオ・フォグラー (Theo Vogler)

〔昭一七・三・四、一四三、追三2一〇〇、追三一〇五〕

論文

Höchstrichterliche Rechtsprechung zum Auslieferungsrecht. GA 1975, S. 225 ff., auch in: Koll. Str. Vgl., 1975, S. 17 ff.

Vogler-Kadel, Der praktische Fall. StR. Eine verhängnisvolle Bitte. JuS 1976, S. 245 ff.

Zur Bedeutung des § 28 StGB für die Teilnahme am unechten Unterlassungsdelikt. Festschr. f. Lange, 1976, S. 265 ff.

ハインツ・ワーグナー (Heinz Wagner)

〔追三一〇五〕

著書

Recht als Widerspiegelung und Handlungsinstrument. Beitrag zur materialistischen Rechtstheorie, 1976.

Fälle zum Strafrecht. Besonderer Teil, 1976.

論文

Wagner - Fangmann - Geulen, Das Urteil des Bremischen

Staatsgerichtshofes zur Juristenausbildung. JZ 1975, S. 430 ff.

Neue Tendenzen im Bereich der Amtsdelikte. Bemerkungen zur Aufhebung des § 340 StGB und zur Änderung des § 340 StGB. ZRP 8. Jg., 1975, S. 273 ff.

Uneidliche Falschaussagen vor parlamentarischen Untersuchungsausschüssen. GA 1976, S. 257 ff.

※ ヨアヒム・ワーグナー (Joachim Wagner)

一九四三年一一月二四日の生まれである。一九七一年に学位を取得し、一九七四年には、ベルリン自由大学助教授となつた。新らしい制度によつているから、いわゆる教授資格論文によりその地位についたものではないと思われる。恐らくは、ルッツトガーの指導を受けたものだろう。

著書

Verfassungsfeindliche Propaganda (§ 86 StGB). Ein Beitrag zu den Grenzen politischer Meinungsfreiheit in der Bundesrepublik Deutschland, 1971.

Selbstmord und Selbstmordverhinderung, 1975.

論文

Rechtliches Gehör und der Rechtsschutz des Strafgefangenen. GA 1975, S. 321 ff.

Der Rechtsschutz des Strafgefangenen. MschrKrim 59. Jg., 1976, S. 241 ff.

Die Neuregelung der Zwangsernährung. Zur politischen Genese einer rechtlichen Fehlkonstruktion. ZRP 9. Jg., 1976, S. 1 ff.

ヘリベルト・ヴァイダー (Heribert Waider)

〔刑一七・三・四、一四三、追Ⅱ2一〇一、追Ⅲ一〇六〕

論文

Zur Theorie und Praxis der Reformation als innerkirchliches Widerstandsrecht. Festschr. f. Lange, 1976, S. 1001 ff.

ハイツ・ヴァルダ (Heiz-Günter Warda)

〔刑一七・三・四、一四二、追Ⅱ2一〇二、追Ⅲ一〇六〕

論文

Vorsatz und Schuld bei ungewisser Tätervorstellung über das Vorliegen strafbarkeitsausschließender, insbesondere rechtfertigender Tatumstände. Festschr. f. Lange, 1976, S. 119 ff.

※ ウルリヒ・ヴェーバー (Ulrich Weber)

一九三四年九月一八日に、シュトゥットガルトの近郊のベート・カンシュタットに生まれた。テュービンゲンとミュンヘンの両大学に学び、ベウマンの助手として、その刑法教科書と演習教科書の作成に協力した。学位は、テュービンゲン大学のフリッツ・ベウアー

に提出した論文 Die Anwendung der Vorschriften über Rechte an Grundstücken auf die Vormerkung により一九六二年に取得し、一九六三年以後、雑誌ニリスチン・ツトイトウンクの編集者の一人となつた。一九七四年に、Der strafrechtliche Schutz des Urheberrechts — Unter Berücksichtigung der bestehenden zivilrechtlichen Schutzmöglichkeiten, 1976 という論文により、教授資格を取得し、一九七五年に私講師となり、一九七六年に短期間、ビーレフェルト大学教授を勤めて後、同年夏学期に、ベルリン自由大学正教授として招聘された。

著書

Baumann - Arzt-Weber, Strafrechtsfälle und Lösungen, 4. Aufl., 1976.

論文

Die Anwendung der Vorschriften über Rechte an Grundstücken auf die Vormerkung. Blätter für Grundstücks-, Bau- und Wohnungsrecht 1964, S. 1 ff., 17 ff., 42 ff., 54 ff.

Der 45. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung, Sozialrechtliche Arbeitsgemeinschaft, Schlußvortrag). JZ 1964, S. 688 f., 726 f., 729 f.

Tagung der Strafrechtslehrer in Freiburg i. Br. (1965). JZ 1965, S. 503 ff.

Eröffnung der Rechts- und Staatswissenschaftlichen Fakultät der Universität Gießen. JZ 1966, S. 199 f.

Ideologie und Recht, Tagung der Deutschen Sektion der Internationalen Vereinigung für Rechts- und Sozialphilosophie (Köln 1966). JZ 1966, S. 412 f.

Der 46. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Probleme der Verfolgung und Ahndung nationalsozialistischer Gewaltverbrechen, Strafrechtliche Abteilung, Schlußvortrag). JZ 1966, S. 714 ff., 759.

34. Deutscher Anwaltstag in Bremen. JZ 1969. S. 376 f.

Glosse „Landsmannschaftliches". JZ 1967. S. 547 f.

Der 47. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung). JZ 1968, S. 714 f., 755 f.

Emil Böhmer zum 80. Geburtstag. JZ 1969, S. 400 f.

Tagung für Rechtsvergleichung (Eröffnungssitzung und Arbeitssitzung der Fachgruppe für Strafrechtsvergleichung). JZ 1969, S. 672 ff.

Der 48. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung, Schlußvortrag). JZ 1970, S. 696 f., 700 f., 741 f.

Strafrechtslehlertagung 1970 in Regensburg. JZ 1970, S. 789 ff.

Fristenverlängerung oder nicht? — Zur Berechnung der Strafantragsfrist, wenn das Fristende anf einen Sonntag, allgemeinen Feiertag oder Sonnabend fällt. JZ 1971, S. 490 ff.

Zusammenfassendes Diskussionsprotokoll, in : J. Baumann-G. Dähn (hrsgg.), Studien zum Wirtschaftsstrafrecht, 1971, S. 143 ff.

Claus Seibert zum 70. Geburtstag. JZ 1972, S. 326.

Der 49. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Strafrechtliche Abteilung, Schlußvortrag). JZ 1972, S. 667 f., 760 f.

Hermann Weinkauff zum 80. Geburtstag. JZ 1974, S. 193.

Der 50. Deutsche Juristentag (Eröffnungssitzung, Abteilung Strafprozeß, Schlußveranstaltung). JZ 1974, S. 719 f., 723 f., 781 f.

Strafrechtslehlertagung 1975 in Göttingen. JZ 1975, S. 498 ff.

Der Mißbrauch prozessualer Rechte im Strafverfahren. GA 1975, S. 289 ff.

ヤハネス (Jürgen Welp)

〔昭一七・三・四、一四〇、昭二〇三、昭一〇六〕

著書

Zwangsbefugnisse für die Staatsanwaltschaft, 1976.

ハンス (Hans Welzel)

〔明一七・三・四、一四〇、昭二〇三、昭一〇六〕

一九七七年五月初旬、死去した。

著書

Abhandlungen zum Strafrecht und zur Rechtsphilosophie, 1975.

論文

Recht und Sittlichkeit. Festschr. f. Fr. Schaffstein, 1975, S. 45 ff.

Über Anlage und Zwillingsforschung. Festschr. f. Lange, 1976, S. 659 ff.

ヨハネス (Johannes Wessels)

〔昭一七・三・四、一三七、昭二〇三、昭一〇六〕

著書

Strafrecht. Allg. Teil, 5. Aufl., 1975, 6. Aufl., 1976.

Strafrecht. Bes. Teil I, 1976.

トマス (Thomas Würtenberger)

〔明一七・三・四、一三七、昭二〇四、昭一〇七〕

論文

In memoriam Hermann Mannheim (1889—1974). Mschr Krim. 57. Jg., 1974, S. 321 ff.

Erziehung und Recht im Strafvollzug. Deimling-Häußling, Erziehung und Recht im Vollzug der Freiheitsstrafe, 1974, S. 73 ff.

ツィプ (Heinz Zipf)

〔刑一七・三・四、一三三、追2一〇五、追Ⅲ一〇七〕

一九七〇年に、マンハイム大学教授になったが、一九七四年に、オーストリアのザルツブルク大学教授に就任した。

著書

Die mangelnde Strafwürdigkeit der Tat, 1975.

Maurach-Zipf, Deutsches Strafrecht. Allgemeiner Teil. Teilband 1. 5. Aufl., 1976.

論文

Der Anspruch des Angeklagten auf Ausschluß der Öffentlichkeit zum Schutze des Privatbereichs — BGHSt 23, 82. JuS 1973, S. 350 ff.

Zur Einwilligung im neuen Strafrecht, insbesondere beim Zusammentreffen mehrerer Rechtsgüter in einem Straftatbestand. ÖRiZ 1976. S. 192 ff.

Reform des Strafverfahrensrechts. Sieverts — Schneider, Hw. d. Krim. 2. Aufl., Erg. Bd. Lieferung 1, 1977, S. 121 ff.